

2022年1月

今こそCOVIDに 打ち勝とう

Gavi COVAX AMC
投資機会



GAVI ワクチンアライアンス

GAVI COVAX AMC

我々は2021年、コンゴ民主共和国東部でエボラ出血熱の12次・13次の流行による症例が増加し始めた際、Gavi管理下のワクチン備蓄によっていかに命が救われたかを目の当たりにした。ワクチンが迅速に配布され、流行は短期間で終息した。同様に、Gavi運営の「COVAXファシリティ」は新規の枠組みを作り、アフリカにおける命を救うワクチンへのアクセス時間を短縮すると同時に、全世界の回復に不可欠な国際連帯の方向性を打ち出している。

フェリックス・チセケディ
コンゴ共和国大統領、
アフリカ連合委員長

目次

はじめに	4
概要	10
これまでの経緯	14
Gavi COVAX AMC:学びと適応	24
まだ終わっていない:世界は今、COVID の収束を緊急に必要としている	39
Gavi COVAX AMCはグローバルな難 題にどのように対処できるか?	47
Gavi COVAX AMCの資金調達	63
今後の展望:将来のパンデミックに備える	79
付録	83
1.AMC対象92か国の一覧およびインドの役割 2.144か国にワクチン10億回分以上を配布 3.モニタリング、評価、学び 4.Gavi COVAX AMCへの100億米ドル以上の誓約 5.ACT (Access to COVID-19 Tools) アクセラレータおよびCOVAX 6.ワクチン現物供与	
巻末注	103

はじめに



COVID-19との闘いにおいて、世界は新たな危機に直面しています。現在世界を席卷しているオミクロン株は、すべての人々が守られるまでは誰も安全ではないという現実を私たちに突きつけました。再びウイルスに先んじるために、私たちは速やかに行動しなければなりません。

世界の人口の半数以上が少なくとも1回COVID-19ワクチンを接種したことは、特筆すべき実績です。安全で効果的な最初のワクチンは、ウイルスの最初のゲノムが発表されてから1年も経たないうちに承認されました。現在、33種類のCOVID-19ワクチンが、少なくとも一つの厳格な規制当局(SRA)から承認されています。これは科学の力と、各国政府と製薬業界が協力した取り組みの賜物です。

しかし、世界中の人々を確実に守るためには、やるべきことがまだまだあります。34億人以上の人々が未だにワクチンを接種しておらず、その多くは最貧国に暮らしています。グローバルな努力を新たにしない限り、世界は終わりのない感染の波と新たな変異株に直面し続け、その結果、健康と繁栄に甚大な被害が及ぶことになるでしょう。

COVAXはACTアクセラレータ(ACT-A)におけるワクチン供給の柱で、2020年4月に発足しました。WHOがCOVID-19のパンデミックを宣言してからひと月後のことです。190以上の国や地域が参加し、COVID-19ワクチンへの公平なアクセスの実現に努めています。

COVAXの枠組みの中でGaviが運営するCOVAX事前買取制度(AMC)は、所得の低い92の国と地域に不可欠なライフラインを提供しています。記録的なスピードで100億米ドルを超えるドナー資金を調達し、接種17億回分以上のCOVID-19ワクチンを確保、AMC対象国のために備蓄しています。

COVAXは2022年1月半ばまでに、**10億回分**を超える命を救うCOVID-19ワクチンを144の対象国・地域に届けました。そのうち8億7000万回分以上がAMC対象国向けです。GaviのCOVAX AMCが知らしめたのは、真にグローバルで多国的な解決策こそ、世界の最貧国に暮らす人々の多くにワクチン接種を実施する唯一の方法であるということです。2021年末までに、AMC対象国で人口の20%をカバーするだけのワクチンを供給するという当初の目標はすでに達成されました。

パンデミックと闘う多くの国々において、ワクチンの供給不足や輸出規制、認可の遅れ、激しいワクチン確保競争、ロジスティクスの問題

接種

COVAXは接種17億回分以上のCOVID-19ワクチンを確保し、AMC対象国のために備蓄することができました。



COVAXは、接種10億回分以上の命を救うCOVID-19 ワクチンを、144カ国・地域に届けました。

が続く中、この実績は評価に値します。しかし、私たちの予測よりはるかに時間がかかっているのも事実です。2021年を通じて、ほかの国々にCOVID-19ワクチンが続々と供給される一方、所得の低い国々の多くは取り残されたままでした。そのためGaviは主要な問題点と弱点を徹底的に検証し、そこから得られた教訓を、事務局内での対応やパートナーとの協働に組み入れました。

私たちは今、パンデミックのターニングポイントにあります。ワクチン供給上の制約がようやく緩和されはじめました。きわめて重要な役割を果たしている現物寄付を含むワクチン供給は、現在急激に増加しています。しかし、ワクチンを人々のもとに届ける能力は国によってさまざままで、パンデミックに対応するために緊急の追加支援が必要な国も存在します。

つまり、接種率70%という世界的目標のもとで、COVAXは各国のワクチン接種計画、プライオリティ、必要とするワクチンの種類など、それぞれの状況に応じたサポートを提供しなければならないということです。オミクロン株に蔓延対し、また次の変異株に備えて、各国がより多くのワクチンを国民に接種できるようにするためには、予想可能で確実な供給、連携のとれた接種支援、そして資金援助が必要です。私たちは引き続き、アフリカ連合のアフリカ・ワクチン調達タスクフォース(AVATT)など、さまざまな組織との緊密なパートナーシップやACT-Aプラットフォームのもと、連携の取れたパンデミック対応を実現していかなければなりません。

高所得国におけるブースター接種への需要増加とオミクロン株への対応により、世界的なワクチンの供給は再び厳しくなるでしょう。予防接種に関する戦略諮問委員会(SAGE)は、すでに所得の低い国々に対し、ワクチンの種類にかかわらず、自国のハイリスクグループに対する追加接種の実施を推奨しています。



II 我々は、最も脆弱な国々がワクチン、治療、検査に確実にアクセスできるようにし、その医療制度を支援することを目的としてACT-Aを設立した。そして、すべての分野での活動を追求すると同時にワクチン接種推進の闘いに勝利する必要がある。COVAXへの支援方法には、配分での優先順位を高める、注文が必要量を上回った際にワクチンを共有する、ワクチン接種用品を補充し現場の活動を支援する、製造拡大のため、サプライチェーンやWTO規則を改善することなどが含まれる。成功への唯一の道は多国間行動にある。

エマニュエル・マクロン、フランス共和国大統領

オミクロン株やその後の新たな危機に対応し、自国だけでは対処しきれないリスクを削減するため、GaviのCOVAX AMCには財政的な備えが必要です。WHOによるCOVID-19のパンデミック宣言以降、平均して4か月ごとに深刻な変異株が新たに発生しています。次の変異株は、きわめて感染力が高く、より重症化したり、ワクチンの効果を損なったりするかもしれません。未だに多くのワクチン未接種者が世界中にいる場合その影響は特に深刻です。

その実現のため、私たちは2022年のCOVAX AMCの新たな資金として、少なくとも52億米ドルを確保し、最低6億回分の追加接種用ワクチンをパンデミック・ワクチン備蓄として確保し、各国の配送システムを強化し、ワクチンの寄付に伴う諸経費の資金として触媒投資の実施を急ぎ行わなければなりません。

これまでの経験から、AMCが**今すぐ**ワクチンを注文できることが重要です。それだからこそ、所得の低い国々でワクチンが必要となると同時に提供が可能になるのです。パンデミック・ワクチン備蓄は、世界の最貧国への支援と接種率の向上を明確な目標とし、AMC対象国が自国のワクチン接種目標を達成するための個別のニーズに対応できるよう、柔軟に運営されます。現在、AMC対象国のワクチン接種率は40%以下から80%以上と、国によって幅があります。資金を事前に確保することで、Gaviは、新しい変異株に対応したワクチンを含む、AMCポートフォリオ内の様々なワクチンを各国のニーズに応じて提供することが可能になります。

供給予測の確実性が増せば、各国がCOVAXと共同してワクチン配送・接種にかかる問題を克服する際の助けになります。また、イノベーションを推し進め、各国が自国のワクチン戦略をさらに拡大するためのプラットフォームを提供します。その結果、パンデミック以前に疎外され既に脆弱な立場にあった人々も含め、誰一人取り残さず守ることができるのです。

現物供与されたワクチンの配送や注射器などの付随コストのための追加資金と、多国間開発銀行(MDBs)を通じた費用分担による各国の支援とを組み合わせれば、2022年を通じて、COVAXが確保すべきワクチンがより予測可能になります。同時に、各国がワクチン接種能力を向上させるため、すみやかに行動を起こすことができます。

世界的リスクに対応しパンデミックを解決するには、安全で効果的なCOVID-19ワクチンを確保・供給する公平な世界的メカニズムが必要であるとの知見に基づいて発足したのがCOVAXです。この数ヶ月の状況が示すのは、この枠組みが機能していること、一方で世界的に連携し

た行動を起こさない限り、COVID-19は感染への防御をすり抜けるすべを見つけ出すという事実です。

もし世界が一丸となり、所得の低い国々の成人が高所得国と同じレベルの接種率を達成できれば、今年は94万～127万人の死を防ぐことができ、一部の国々ではパンデミックによる経済コストを半減することができます。

目標達成のための時間はわずかで、私たちに課せられた任務は一刻を争います。機を逃してはなりません。再び力を合わせ、新型コロナウイルス感染症に打ち勝ちましょう。そして世界全体を守るのです。



ジョゼ・マヌエル・バロージョ
理事長
Gaviワクチンアライアンス



セス・バークレイ
事務局長
Gaviワクチンアライアンス

概要



II COVID-19が世界を変えた。人命を奪い、医療システムを崩壊させ、人々の生活を損なっている。しかし、これらの課題に対処することで、我々は強力な多国間協力による人類最高の姿を目撃している。

ナナ・アクフォ＝アド、ガーナ大統領

2020年4月、GaviとCOVAXはパンデミックと闘うため、COVID-19ワクチンへの公平なアクセスを世界に提供するACTアクセラレータ（ACT-A）に参加しました。2020年6月には、所得の低い92ヶ国のために公平なアクセスを資金援助するGaviのCOVAX事前買取制度（AMC）が発足。以来、100億米ドル以上の資金を集め、ワクチンの調達と配送を支援しています。供給に困難が伴う状況にもかかわらず、COVAXは今までに144カ国に接種10億回分のワクチンを輸送しました。うち、AMC対象国に輸送されたのは8億7000万回分を超えます。

ドナーの財政支援、ワクチンの現物寄付、そして多国間開発銀行（MDBs）の支援によって、COVAXは2022年半ばまでに接種28億回分以上のワクチンを確保しました。これらをすべて活用すると、2回接種タイプのワクチンを使用した場合、AMC諸国は2022年半ばまでに平均45%の接種率を達成できます。我々のパートナーでもあるアフリカ連合のアフリカ・ワクチン調達タスクフォース（AVATT）を含む、二国間でのワクチン供給の仕組みも利用すれば、AMC諸国はワクチン確保のためより多い選択肢を持つことになります。

COVAXは期待通り、所得の低い国・地域¹が必要とするワクチンの供給源となりました。これらの国々はワクチンの80%をAMC経由で受け取っています。多くの国々が、ワクチンの接種能力を早急に向上する必要に迫られています。COVAXは、ワクチン調達の資金と配送システム強化のための触媒投資を組み合わせ、各国のワクチンプログラムの拡大を支援してきました。これは今後もCOVAXの優先事項となります。

ワクチン供給に伴うリスクは2022年にも継続します。これまでの経験から、輸出規制や製造拡大、ワクチン候補の認可の遅れや不認可等の理由で、供給中断という重大なリスクが存在することがわかっています。現在、100ヶ国以上でブースター接種が推奨され、またオミクロン株の急速な蔓延に伴い、接種プログラムは加速しています。一般的に、所得の低い国々は高所得国と同等のワクチン接種レベルを求

80%

低所得国¹はワクチンの80%をCOVAXAMCを通して受け取っています。



オミクロン株により低所得国のワクチン需要が増加し、供給へのプレッシャーが高まります。

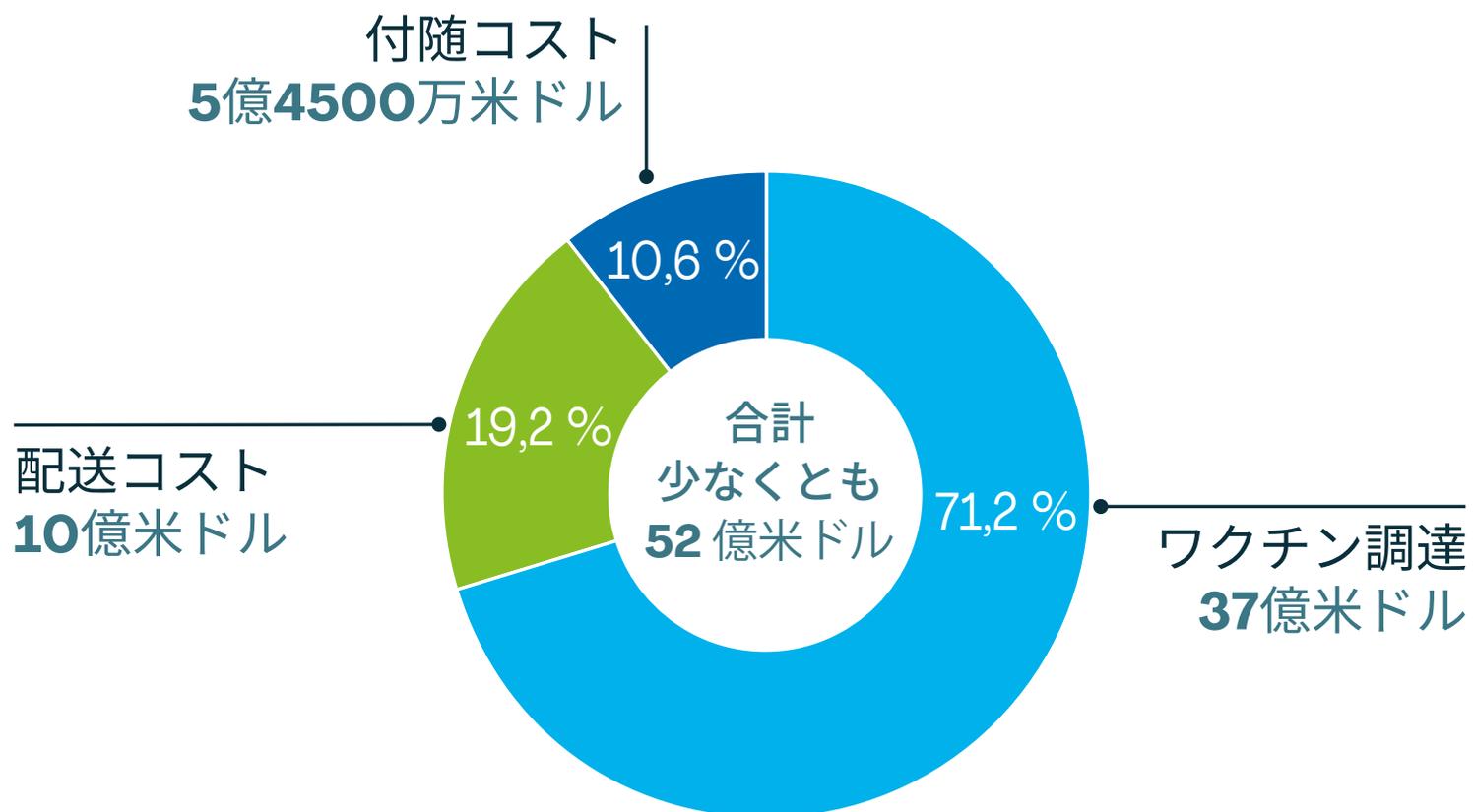
めるので、所得の低い国々からの供給へのプレッシャーと需要は更に増加します。もし新しいワクチンや改良型のワクチンがオミクロン株、或いはそのほかの新しい変異株からの防御に必要となれば、需要が加熱する一方で、短期的な供給は限られてしまいます。オミクロン株による危機に対応し新たな危機に備えるため、COVAXは2022年3月末までに少なくとも52億米ドルの追加資金の前払いを必要としています。COVAXが持つAMC諸国のリスクを集約する能力を最大限に活かすことで、各国のワクチン接種計画と接種率の目標を支援します。この資金により、GaviのCOVAXAMCは3つの戦略を推進できるようになります(図1を参照)。

- 最低6億回分の追加接種用ワクチンを確保してパンデミック・ワクチン備蓄とし、接種率の向上と需要と供給のリスク緩和につなげるため、少なくとも37億米ドルが必要。
- ワクチンの現物寄付に不可欠な付随的コスト(注射器、セーフティボックス、無過失補償制度、輸送費)に5億4500万米ドルの資金が必要。
- ワクチン接種のための国内配送システムを強化し、Gaviアライアンスの比較優位性を更に強化するため、COVAXに対する少なくとも10億ドルの資金(Gaviが調達した6億米ドルに加えユニセフが同時に調達する見通しの4億米ドル)が必要。

2022年にこのようなアプローチをとれば、AMC諸国への安定しかつ予測可能なワクチンの供給が可能になり、接種率が向上し、ブースター接種用ワクチンの供給を開始し、各国が効果的な免疫を獲得できるようになります。そうすれば、AMC対象国の中でも最も脆弱で支援を必要としている所得の低い31ヶ国に集中することができるようになります。COVAXの目的は、疎外され最も弱い立場に追いやられている人々を守ることです。

図表 1

少なくとも合計52億米ドルの費用内訳



これまでの経緯



II 全世界のパンデミックとの闘いは、ドイツが議長国を務めるG7で議題の中心となるだろう。自国に気を配るだけでなく、世界の他の国々がワクチン接種を確実に完了することが重要である。

オラフ・シュルツ、ドイツ連邦首相、G7議長

世界の誰もがCOVID-19ワクチンにアクセスできるまで、この世界的な危機が終息しないことは、新型コロナウイルス (COVID-19) のパンデミックの初期段階ですぐに明らかになりました。グローバル・コミュニティの要請により、2020年に英国が主催した世界ワクチンサミットにおいて、ワクチンの開発と製造を加速し、世界のすべての国に公正で公平なアクセスを保証するための「COVAXファシリティ」が発足しました。

COVAXファシリティは、世界の半分以上を占める最も脆弱な国や地域に予防接種を行ってきた20年以上の経験を持つGaviワクチンアライアンス (以下Gavi) が主導しています。感染症流行対策イノベーション連合 (Coalition for Epidemic Preparedness Innovations、CEPI)、WHO、ユニセフと共に、190以上の参加国を代表して、安全かつ効果的なCOVID-19ワクチンで構成される多様なポートフォリオ内のワクチンの調達と公平な分配の責任を負っています。

Gavi COVAX AMC

COVAX内に設立されたGavi COVAX AMCは、対象となる92の低所得国 (付録1の一覧を参照) に、ドナー資金によるCOVID-19ワクチンへのアクセスを提供することを目的とする革新的資金調達メカニズムです。COVAXの当初の目標は、2021年の年末までに、そのポートフォリオから9億5,000万回分のワクチンをAMC諸国へ供給できるようにすることでした。これは、医療従事者と最も脆弱な人々からワクチン接種を開始して、人口の平均20%を保護するのに足る数量でした。

100億ドル

2021年第3四半期に確保した追加資金で、調達した資金の合計が100億米ドルに

Gavi COVAX AMCの第1段階は、2020年6月の英国政府主催の世界ワクチンサミットにおける支援の高まりを背景に獲得された5億500万米ドルの創設資金です。これをもとに、Gaviの2021～2025年の主要プログラムに対し88億ドルの誓約が集まりました。1回目接種分を確保するための頭金をメーカーに支払えるように、2020年の年末までに20億米ドルを動員するという目標が設定されました。この目標は、官民の支援を得て2020年12月末までに達成されました。

第2段階は、2021年2月のG7サミットでの本格的な支援、およびアメリカ合衆国政府が主催した2021年4月の投資機会のローンチで始まりました。その機運は、G20の議長国として欧州委員会とイタリアが5月21日に共同主催した世界ヘルスサミットを通してさらに高まり、日本政府主催の6月2日のGavi COVAX AMCサミットにおいて最高潮に達しました。

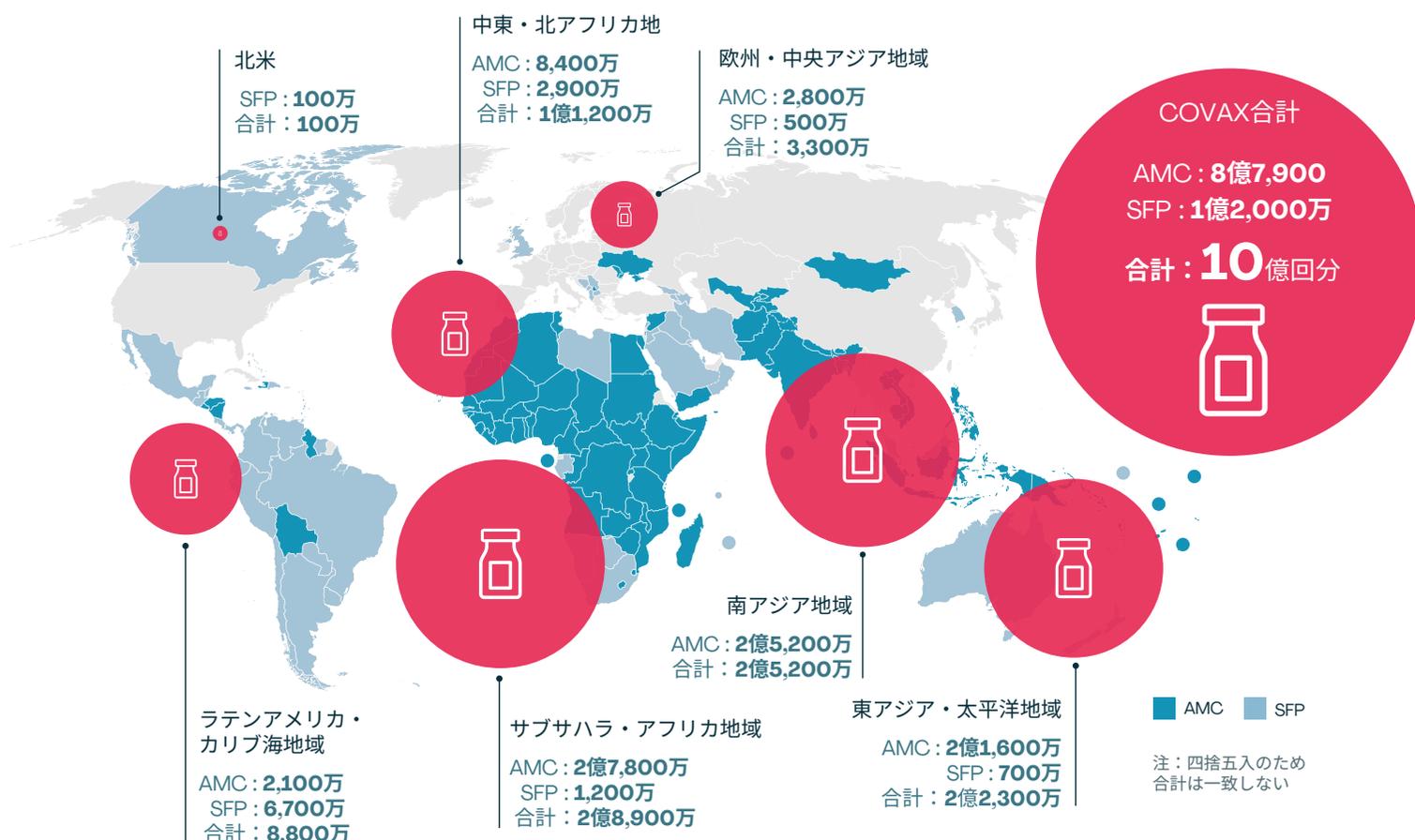
2021年第3四半期に確保した追加資金を含めると、調達した資金の合計は100億米ドルを上回りました。これによりGavi COVAX AMCは、AMC対象国向けに17億回分のワクチンからなる広範で多様なワクチンポートフォリオを作り上げ、さらに各国でのワクチン配布支援に向けて追加で8億2,200万米ドルを確保しました。

2021年の成果と課題

大きな課題に直面しながらも、発足から18か月間のうちに、Gavi COVAX AMCは注目に値する成功をいくつか収めています。真にグローバルな解決策、つまり諸国が資金を共同出資することで各国の個別のリスクを低減する解決策は、低所得国に大規模な成果をもたらすことができました。COVAXは、発足当初からドナーの寛大な財政支援に支えられ、広範で多様なCOVID-19ワクチンポートフォリオを記録的な速さで構築しました。

図表 2

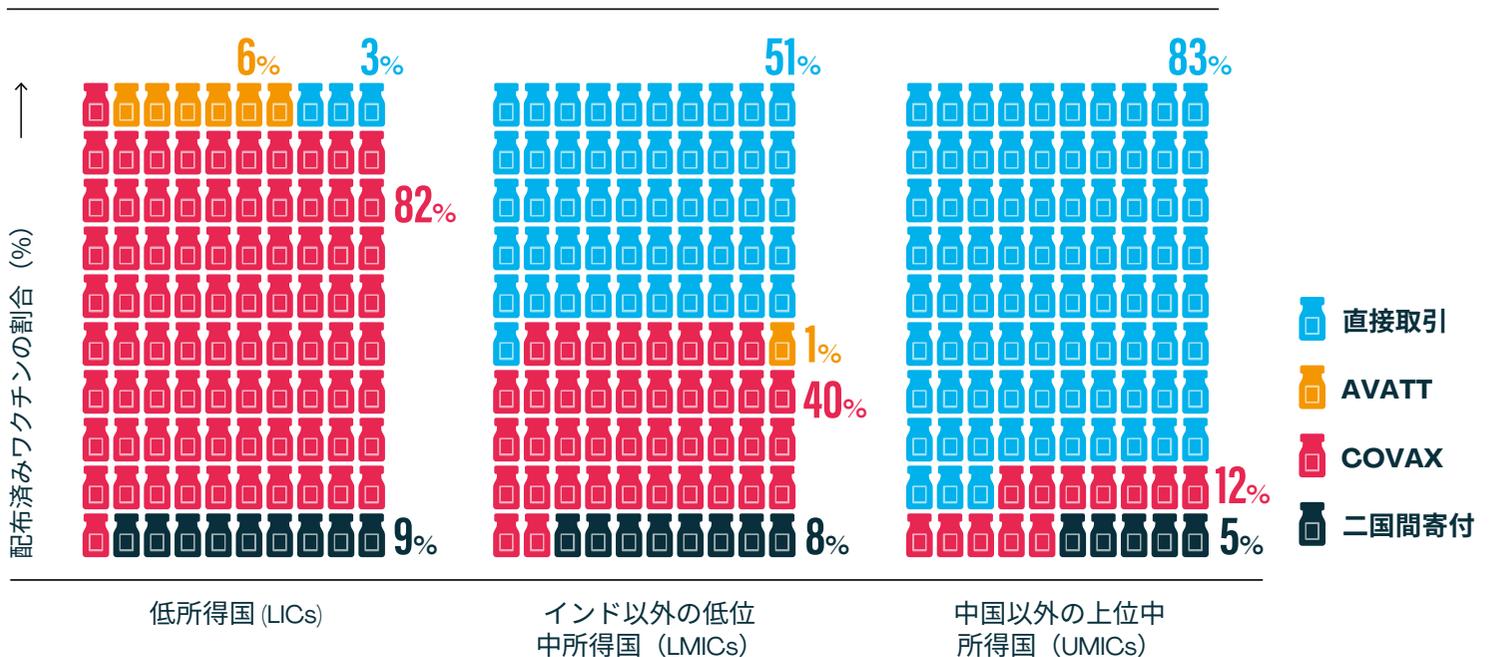
COVAXワクチンの地域別配布状況



COVAXがAMC諸国に支援した最初のワクチンは、高所得国で初のCOVID-19ワクチン接種が行われてから39日以内に届けられました。2021年半ばまでに、AMC対象80か国以上が国内の配布体制を促進するために、Gaviの「早期アクセス」財政支援を要請しました。2021年末までには、COVAXはAMC諸国への供給用に当初の目標を上回る12億回分以上のワクチンを入手しました。現在までに、そのうち接種8億7,000回分以上がAMC対象国に出荷されています(詳細は図表2と付録2を参照)。Gavi COVAX AMCは期待通りの役割を低所得国で果たしており、今までに接種されたすべてのワクチンの82%をCOVAX経由のワクチンが占めています(図表3を参照)。

図表 3

COVAXワクチンの地域別配布状況



データソース：ユニセフCOVID-19ワクチン市場のダッシュボード（2022年1月5日）

しかし、これを達成するのにCOVAXが当初予測していたよりもずっと長い時間がかかりました。2021年の大半において、COVAXは非常に困難な一連の課題に直面し、当初の目標を達成できないばかりか、AMC対象国と高所得国の間に不平等が高まっているのを目にしました。ワクチンの激しい争奪戦によって、COVAXが製薬会社と契約した早期ワクチンの配布が遅れました。高所得国は財政的に優位にありリスク選好度がより高いため、製造待ちの最前列に場所を確保できました。一方、COVAXへの主要サプライヤーの製造上の問題や規制当局の承認の遅れに加え、低所得国へのワクチン供給に歴史的に定評のあるインドが輸出禁止を行ったことで、事態は悪化しました。COVAX AMCの早

期供給用ワクチンの45%はインドのサプライヤーとの契約のもと確保されていたからです。また、他の資金源からの配布用資金も、当初期待された速さや規模での入手が叶いませんでした。このような供給の不確実性のため、多くのAMC諸国が、大規模なCOVID-19ワクチン接種キャンペーンを実施できるよう迅速にその保健システムを拡充することができませんでした。このことは2022年においても中心的課題となっています。



2022年に向けた教訓と軌道修正

GaviとCOVAXパートナーは、今までの成果と直面した課題について深く考察し、導き出した教訓と今後の変更は本書に概説されています。世界目標である接種率70%のもと、AMC諸国が独自の予防接種目標を設定し達成することを、COVAXが支援するための手段を提供しています。これらの教訓は次章で詳述しますが、要約は以下のとおりです

- **AMCが要求するワクチン量を確保するには前倒しの資金調達が必要である。**2021年に起きたような不平等を回避するには、COVAXがワクチン待ちの列に順番を確保し、ワクチン接種率70%の目標達成に向けてAMC諸国の接種計画、優先事項、希望に沿ったワクチンを提供する柔軟性を持たねばなりません。そのためには即時の資金調達が必要です。
- **ポートフォリオの多様化と再構築によってその柔軟性を高め、供給ショックを和らげる。**18ヶ月にわたるCOVID-19ワクチン市場での経験を基に、Gaviは、より多様な地域的拠点とより有利な契約条件、より信頼性の高いメーカーを優先し、ポートフォリオを積極的に再構築しました。
- **配布支援の強化によって各国の接種能力を高める。**Gaviとアライアンスパートナーは、AMC諸国のワクチン接種に協力するには一層の支援と追加資金が必要だと認識しています。特に、最大の課題に直面している20~25か国への支援に集中し、接種率を加速するための活動を支援します。

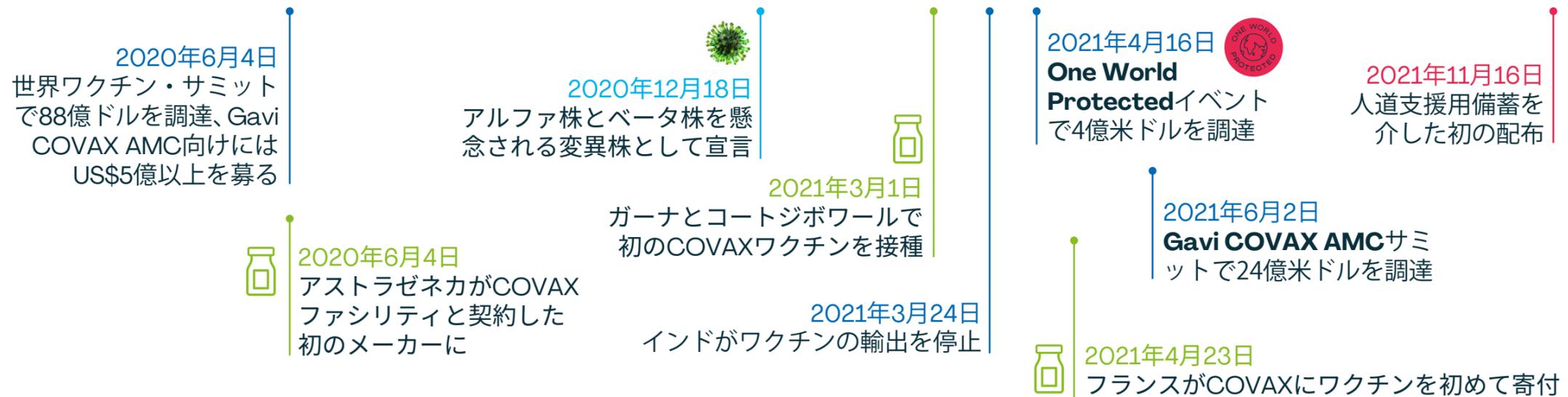
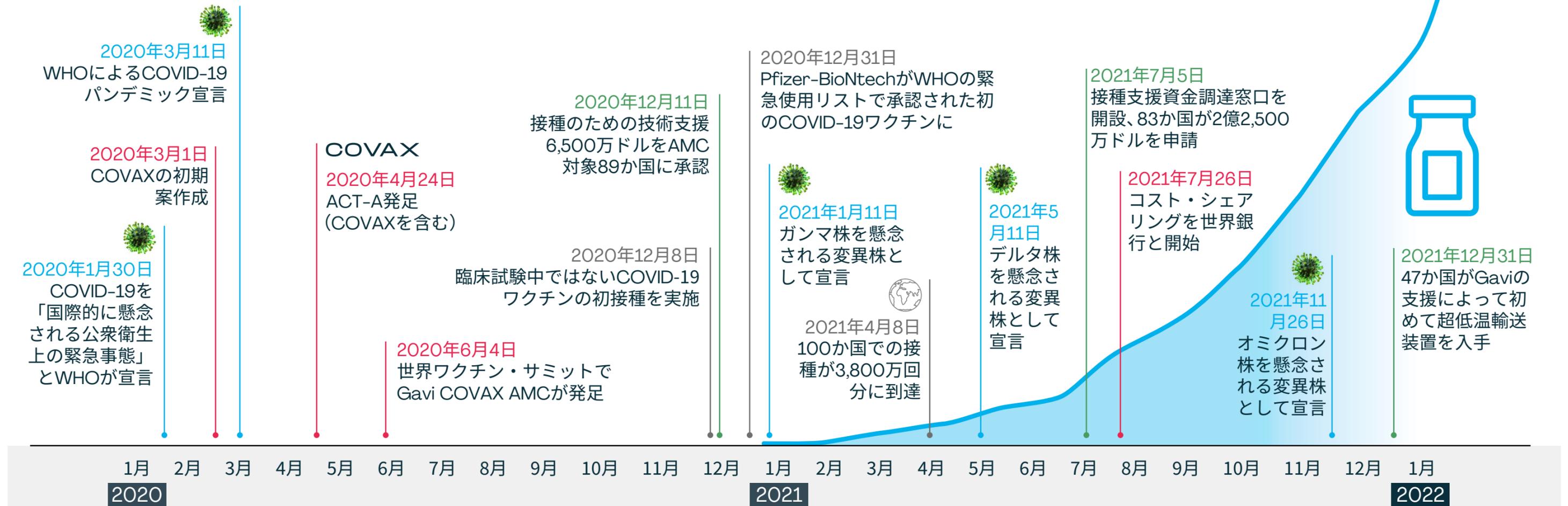
- **世界と地域のパートナーとの緊密な調整が極めて重要である。**Gaviは2022年の戦略を、ACTアクセラレータの他のパートナーと緊密に調整しています。AMC諸国に今後の供給について明確で共通の展望を提供できるよう、アフリカ連合のアフリカ・ワクチン調達・接種タスクチーム (AVATT) など主要なパートナーとの関係を強化しました。
- **ワクチン現物供与が命を救うメカニズムに貢献する。**2021年、大量のワクチンの現物供与へのアクセスがCOVAXにとって不可欠でした。2022年、Gaviは長期的な視点に立ってワクチン現物供与メカニズムに引き続き適応し、AMC諸国に予測可能性を提供します。



図表 4

Gavi COVAX AMCの主なマイルストーンのタイムライン

8億7,000万回分のワクチンを2022年1月16日までにAMCへ出荷



GAVI COVAX AMC: 学びと適応



II ウイルスに打ち勝ち、世界の貿易、投資、成長を回復させるには、誰もが手頃な価格でCOVID-19ワクチンにアクセスできるようになることが不可欠である。世界はワクチン製造量を今すぐ増加させ、迅速な配布を確実にしなければならない。いくつかの主要国が申し出ている支援は称賛すべきものだが、さらなるニーズへの対応が必要だ。極めて緊急を要するのは、COVAXファシリティの資金需要が満たされることであり、これには十分なワクチンを公正価格で購入できるようにするための低利の融資や補助金の提供が含まれる。

オラフ・シュルツ、ドイツ連邦首相、G7議長

COVAX AMCの設立後、Gaviは最も厳しい状況の中、複雑かつグローバルな資金調達メカニズムの設計と導入を行い、その経験から多くを学んできました。以下の学びは、COVAXの運用モデルの変更を促しただけでなく、2022年におけるAMCへのアプローチの指針となっています。モニタリングと評価、学びに関するGaviの厳格なアプローチの詳細については、付録3を参照してください。

AMCが要求するワクチン量を確保するには前倒しの資金調達が必要である。

パンデミックの早期に速やかに動いた高所得国は、各種のワクチンを必要以上に大量注文して自国用のワクチン供給を確保することができました。注文は規制当局の承認よりもかなり前に完了し、資金繰りのリスクを負いながらも順番待ちの先頭でワクチンを確保し、これら当初の取引の多くは2020年第3四半期までに完了しました。

パンデミックが始まった当初、Gaviはこのような優位性を持ち合わせていませんでした。資金調達のメカニズムがなく、ドナーからの財政支援の不安定さをも見越して、リスク許容度を高める必要がありました。これは特に規制当局の承認の前に必要でした。



91億米ドル

ドナーと締結された財政支援協定は91億米ドル相当に

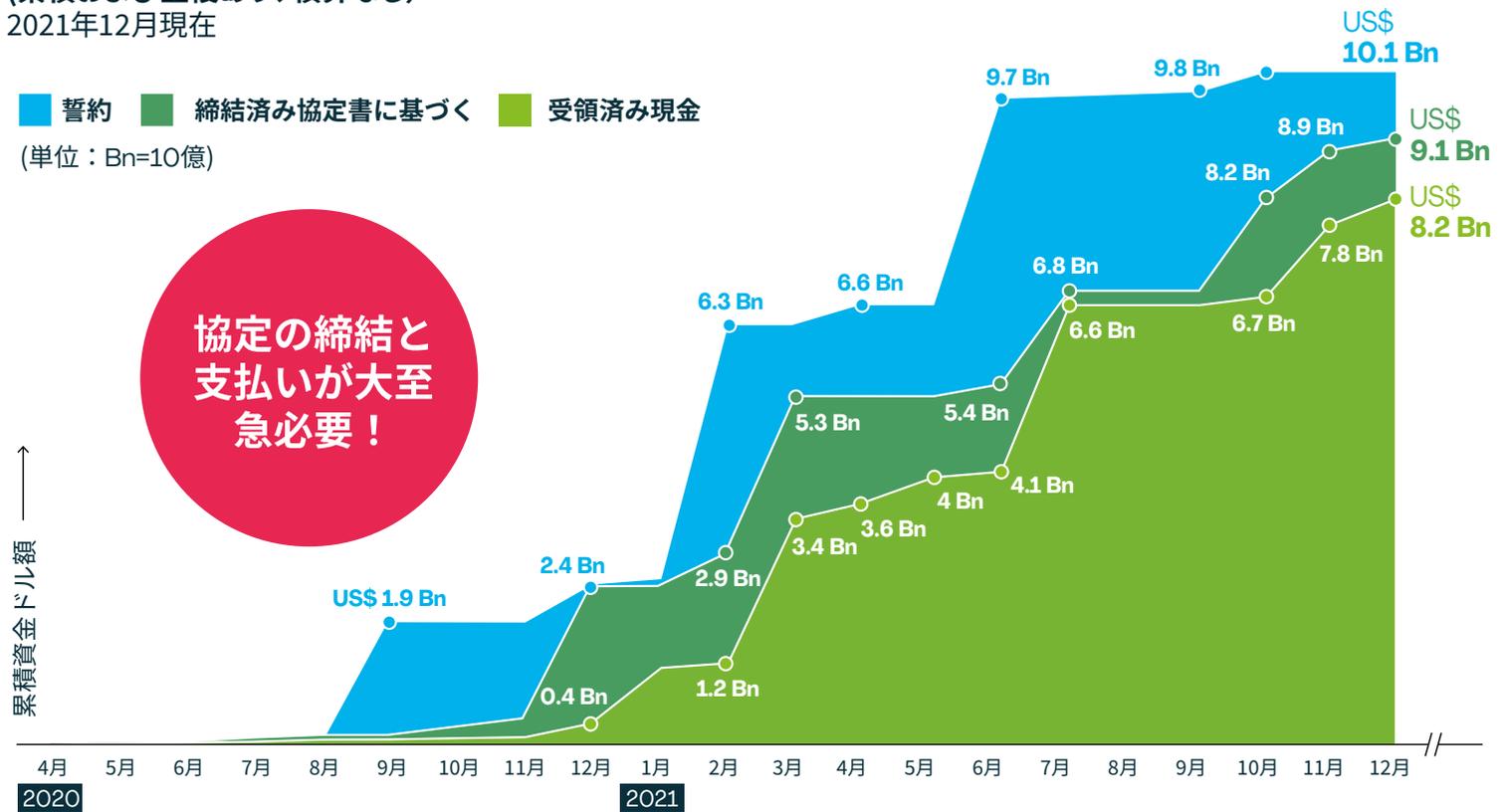
世界保健機関 (WHO) によるCOVID-19のパンデミック宣言から9か月後の2020年12月までに、COVAXが受け取ったのは現金4億米ドルのみでした。Gaviは100パーセント現金で保証されているか、取り消し不能な確約でない限りワクチンに関する取引を締結できず、各国政府よりも不利な立場にあり、AMC諸国向けの早期供給分の確保において高所得国に太刀打ちできませんでした。我々はこの大きな問題を速やかに認識し、以来、現金支払いが一貫して推奨されています。ドナーによる91億米ドル相当の現物供与の契約が締結されるとともに、COVAXは現在までに82億米ドルを現金で受領し(ドナーの確約の内訳は図表5と付録4を参照)、低所得国向けに17億回分のワクチンを確保しました。

2021年に起きたような不平等を回避するため、今年は早期に資金調達を行い、ワクチン接種の世界目標である70%にタイムリーに貢献すべく、AMC対象国向けにCOVAXのポートフォリオから追加のワクチンを確保する必要があります。そのために、革新的財政手法の開発というGaviの伝統に則って、ドナーからの誓約を前倒しするための一連のメカニズムを開発しました。詳細はこの「投資機会」の資金調達の項を参照してください。

図表 5

Gavi COVAX AMC 誓約済み・受領済み資金

(累積および重複あり、積算なし)
2021年12月現在



ポートフォリオの多様化と再構築によってその柔軟性を高め、供給ショックを和らげる。

COVAXは、過去18か月間にドナーから提供された100億米ドルを使用し、世界最大のワクチン・ポートフォリオを構築しました。2020年に最初の取引がなされた際は、どのワクチンが有効かそうでないかを知ることがはまだ不可能でした。COVAXが早期の事前取引を行うのは、世界の異なる地域で製造される異なる種類のワクチンについて様々なメーカーと契約を締結し、リスクの緩和を図るためでした。低所得国へのワクチン供給に経験をもつGaviの主要サプライヤーとの協働にも焦点を定めていました。

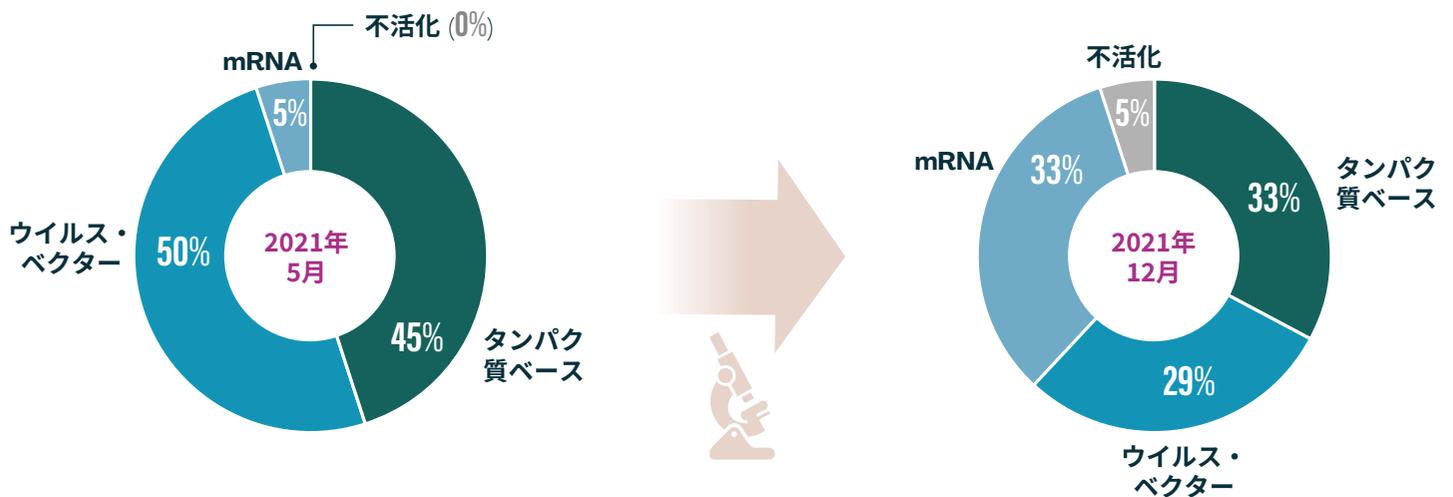
COVAXは2021年後半まで、AMC諸国への早期供給のためのワクチンを希望量入手することができませんでした。高所得国は、低所得国もCOVAXも利用できなかった早期供給の取引をまとめることができました。AMC諸国への最大のサプライヤーであるインドからの供給が、輸出制限によって6か月以上停止したこと、規制当局によるワクチン承認の遅れも、私たちの早期供給の足かせとなりました。

COVAXは以下の原則に基づいて積極的にワクチン・ポートフォリオを多様化し、パンデミックの進化に伴って構成を大幅に変更しました(図表6を参照)。

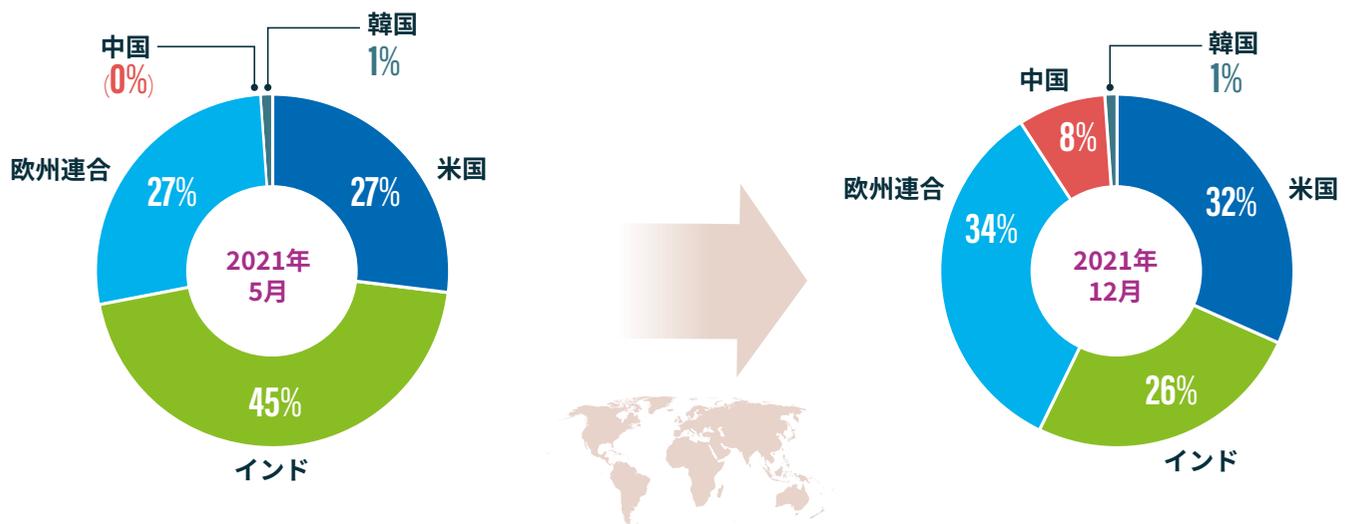
- 価格を最適化してバリュー・フォー・マネーを生み出し、ポートフォリオ内の数量を最大化する(その結果、1ドーズあたり平均5~7米ドルとなっている)
- 早期供給分を優先し、できるだけ早く目標接種率を達成する
- 比較的効果の高い、あるいは有効なワクチンや、開発中の変異適応型ワクチンを持つメーカーを優先することで、保護の質を最適化する。
- 確実な供給という点において信頼できると思われる、もしくはそれを証明した製薬会社を優先する
- COVAXの製造ネットワークの地理的な多様性を維持する

図表 6
需要と供給の変動によるリスク緩和のためのCOVAXのポートフォリオ管理

技術プラットフォーム別¹COVAX AMCポートフォリオ構成



メーカー所在地別^{1, 2}COVAX AMCポートフォリオ構成、



注:

¹数量は確定購入契約(FOC)のみを反映。J&Jの数量は2回接種型のワクチン候補との同等性を確保するために2倍で計算。
²製造場所は、本書出版時に入手可能だった最新情報に基づく。製薬会社の今後の計画に基づき変更される可能性がある。

上記の取り組みと先行資金調達によって、2022年には、全世界の目標接種率である70%の達成に向けてより多様で大規模な支援をAMC対象国に提供し、各国の計画、優先分野、希望に対応することができます。当然ながら、長期的には各国で使用されるワクチンの種類を減らすという観点から、シンプルさは重要です。しかし一方で、各国が適切なワクチンを適切な人々のために用意し、供給の効率を向上させることも極めて重要です。





「WhatsApp Trees」を使い、ルワンダの市民社会が10分間に6万人のボランティアに連絡

COVAXは、ルワンダに分配された合計1,400万回分のワクチンのうち900万回分を2021年12月中旬までに配布しました。ワクチンへのアクセスを保証し需要を推進することは優先事項であり、これには市民社会が重要な役割を果たしています。ルワンダの市民社会プラットフォームに参加している40のメンバー組織およびルワンダ赤十字社のボランティアは、「WhatsApp Trees」の構想を練り、ボランティアを動員してCOVID-19に関する主要なメッセージを速やかに共有しています。州、地区、および村のボランティアはメッセージで指示を受け、そのメッセージは約62,000人のボランティアによって10分以内に共有が可能です。

ルワンダでは人口の80%に携帯電話で連絡がつき、スマートフォンの普及率は15%であるため、情報を非常に速く共有できます。広範な地理的範囲をカバーする携帯のメッセージプラットフォームは、COVID-19ワクチン接種を支援する大きな可能性を提供します。ルワンダ政府、COVAXのパートナー、および市民社会が革新的なアプローチを使用した結果、超低温輸送その他の要件があるファイザーのワクチンが含まれていたにもかかわらず、一日あたり最大10万回分のワクチン接種を達成しました。

配布支援強化によって各国のワクチン接種能力を高める

Gaviの主な比較優位性は、低所得国への大規模なワクチンの導入と接種を支援してきた22年の歴史にあります。Gaviアライアンスは、予防接種に取り組んでいる主要ステークホルダーすべてを取りまとめ、各国にワクチン支援、技術援助、および補助金の統合パッケージを提供し、各国の保健システムを強化します。約8億9,000万人の子どもに定期予防接種をし、キャンペーンを通して10億回以上のワクチンを接種してきました。私たちは、ワクチン調達資金と触媒的融資の組み合わせが、各国の予防接種プログラムを一気呵成に実施する上でいかに重要かを学んできました。

2020年9月、COVID-19ワクチンがWHOの緊急使用リスト(EUL)に記載される何か月も前に、Gavi理事会は通常プログラムの財源から1億5,000万米ドルの利用を承認し、各国への技術援助とコールドチェーン装置の提供によって、COVID-19ワクチンの接種準備を支援しました。アライアンスとAMC諸国の協力により、すべての国々が2020年12月までに技術支援計画を整備できるよう、400人以上のWHOおよびユニセフのスタッフを配置してプランニングとワクチン配布の管理をサポートしました。アライアンスパートナーはまた、各国がそれぞれのコールドチェーンのギャップを埋められるよう早くから支援に乗り出しました。以前はワクチンの超低温保存ができなかった40か国以上の国々に、数ヶ月のうちに6,000台以上の冷蔵庫、冷凍庫、コールドルーム(貯蔵冷蔵庫)を提供して保管能力の形成に務めたのです。

国際開発金融機関(MDBs)はAMC対象国にかなりの資金を融資し、当初はこれが接種費用の大部分を賄うと期待されました。ところが、この資金は主にワクチンの調達に使われ、配布用に割り当てられた資金のほとんどはすぐに使用されませんでした。そのため、調達・技術援助・早期財政支援の組み合わせで接種を強化する機会を逃してしまいました。

これらの資金ギャップに対処するため、ドナーはGaviに対し、接種支援用に追加の8億2,200万米ドルを提供しました。理事会の承認から数日以内に、GaviはCOVID-19ワクチン・デリバリー・サポート(CDS)用に新しい資金調達窓口を開き、各国の接種努力を助けるための補助金を提供しました。「早期アクセス」資金への申請プロセスが合理化され、利用可能になると、合計83か国が2億2,500万米ドルを要請し、そのうち約2億米ドルが支払われました。これは多くのAMC諸国において、現在までで接種資金の最大の融資元となっており、ワクチン接種の急速な規模拡大に貢献しています。

2021年第3四半期にGaviは「ニーズに基づいた」の資金調達窓口を開いて申請を受け付けました。アライアンスの様々なパートナーが定期的にもたらす情報と分析に基づき、接種資金の融資に最大のニーズとギャップをもつ国々のために約4億米ドルが用意されました。各国はすでに1億9,000万米ドルの追加支援を申請しており、2021年の年末までに、さらに12件の申請が受理されました。Gaviは、差し迫ったニーズに対処するため、申請から2週間以内に申請国が資金を利用できるようにすることを目指しています。

Gaviは、世界で最も困難な状況下でのワクチン接種にも注力し続けています。COVAX人道支援用ワクチン備蓄は、他の支援を通じてワクチン接種を受けられない人道的状況にある人々のセーフティーネットとして設立されました。そのような人々は世界中に1億6,700万人以上存在します。人道支援用備蓄はCOVAX AMCの財源の最大5%を資金としています。すでに運用が始まっており、独立審査によって最初の申請者が承認され、アフガニスタンの地域紛争によって難民となったイラン在住の約80万人にワクチンが提供されました。この備蓄を通じた配布は、人道支援組織向けワクチンについての求償権放棄に同意する製薬会社が推進しています。



COVAX人道支援用備蓄は他のソースを通してワクチン接種を受けられない人道的状況にある人々のセーフティーネット



Gaviは、ワクチンへの信頼と理解を高めるために、エビデンスに基づくアプローチを試し、学び、拡大する取り組みも強化しています。これはワクチン接種需要ハブが主導しており、世界中のパートナーが協力して、国レベルでの需要拡大プログラムを支援するための手法、エビデンス、およびツールを作成します。また、ユニセフとの提携により各国は、革新的で状況に応じたアプローチを通じて、ワクチン接種率が低い理由を特定し対処するための支援を受けています。例えば、女性やハイリスク人口がワクチンにアクセスしやすくなるための活動などに焦点が当てられます。

上記のような、パートナーとの協力のもと行われた活動により、AMC諸国のワクチン接種能力は3倍になりましたが、それでもまだ十分とは言えません。2022年、Gaviとアライアンスパートナーは、最大の課題に直面している20~25の低所得国を中心に、AMC諸国に根強く残る格差の是正のためには、緊急の追加資金と調整努力が必要であることを認識しています。

トーゴ共和国がCOVID-19ワクチンの展開をデジタル化

「正直なところ、ニュースでCOVID-19の最初の感染者が報道された時、私は命の危険を感じました。アフリカでは、質の高い医療にいつもアクセスできるとは限りません」と、トーゴ人の若き起業家Sodji Evraは言います。しかし、これは彼がアストラゼネカのワクチンを2回接種し、同国でCOVID-19の予防接種を受けた120万人を超える人々の一人となる前の話です。トーゴは2021年3月にCOVAXからの最初のワクチン配布を受け、現地当局が速やかに行動した結果、5月末までに国内の医療従事者の93%が完全にワクチン接種を終えました。

Gaviは保健省の取り組みを支援し、誤情報を食い止め、事実確認済みの情報を広めて、ワクチン需要を喚起しました。これにはアライアンスパートナーによる技術援助が含まれ、情報提供を行うとともに、COVID-19に関する思い込みや噂への反論を目的としたコミュニケーション資料も作成しました。知事、市長、村長、市民社会組織、および宗教や地域社会のリーダーを動員するためのリソースも提供し、誤情報への対処にあたりました。

トーゴの成人400万人に国内約70か所のワクチン接種センターのいずれかでワクチン接種を受けてもらうために、政府は新しいアクセス経路を開発しました。携帯電話で「*844#」をダイヤルするとSMSベースの接種登録プロセスが開始され、Webベースのシステムでも5分未満で予約ができます。ワクチン接種証明書もデジタル化され、政府は2021年6月に、アフリカ初のワクチン接種デジタルパスポートシステムの一つを開始しました。QRコードを使用するこのシステムは、国が運営するサービスと施設へのアクセスを向上させ、ワクチン接種率の上昇を誘発する狙いがあります。「すべてのワクチンが接種可能で、無料で安全です。ワクチン接種はこのパンデミックから抜け出る道です」と、トーゴのCOVID-19対応を先導するDjibril Mohamanは言います。

世界や地域のパートナーとの緊密な調整が極めて重要

Gaviワクチンアライアンスの「心臓」は、パートナーと常に緊密に連携することにあります。パンデミックが宣言される数か月前の2020年1月、Gaviは世界的なCOVID-19ワクチンへの取り組みを促進するために、CEPIとの協議をすでに開始していました。Gavi COVAX AMCは2020年6月、Gaviアライアンスパートナー、WHO、およびユニセフと共に、英国が主催するグローバル・ワクチン・サミットで発足しました。

パンデミックの始まりから一貫して、COVAXはATCアクセラレータ内の治療部門、診断部門、そして横断的な保健システム・コネクタと緊密に調整の上、戦略・計画立案および資金調達を行っています。この投資機会を設定されている計画と目標は、2021年10月に発表された「ACT-Aの戦略計画と予算」に完全に準拠しています。内容の詳細は、付録5を参照してください。

パンデミックの進行に伴い、地域の協力もますます重要になっています。アフリカ連合のアフリカ・ワクチン調達・接種タスクチーム (AVATT) などのイニチアティブが確立され、COVAXと緊密に協働して、各国がそれぞれのワクチン接種目標に到達できるように支援を行っています。Gaviは汎米保健機構 (PAHO) とも協働し、ラテンアメリカおよびカリブ海のCOVAX参加国のためにCOVID-19ワクチンと接種に必要な安全な注射器を調達・供給しています。



アフリカ連合のアフリカ・ワクチン調達・接種タスクチーム (AVATT) イニシアティブ

アフリカ大陸におけるCOVID-19ワクチンへの広範なアクセスを保証するために、アフリカ連合はアフリカ・ワクチン調達・接種タスクチーム (AVATT) を発足させました。AVATTは、COVAXなどのイニシアティブを補完し、ワクチン数量を確保して、アフリカの人口の60% (後日70%へと変更) に接種するという目標を掲げています。すでにジョンソン・エンド・ジョンソンおよびモデルナの両社と契約を結び、当イニシアティブに参加しているアフリカ39か国とカリブ海の15か国に対し、2022年中に4億5,000万回分のワクチンを配布することを目指しています。イニシアティブのパートナーには、アフリカ輸出入銀行 (Afreximbank)、アフリカ経済委員会、アフリカ疾病予防管理センター (アフリカCDC)、および世界銀行が含まれます。

COVAX、AVATT、およびアフリカCDCは緊密な関係を築き、AVATTメンバー諸国と高所得国の間にあるワクチンギャップを埋めるための補完的な目標を共有しています。幹部レベルと技術者レベルが定期的な交流を持ち、供給と出荷の情報を一致させ、配布のために協調融資を行い、各国への技術援助を調整します。共同行動計画によって知見・情報を共有することで、ワクチンの理解に関する障害を取り除き、能力を向上させます。COVAXとアフリカCDCは毎週会議を開き、支援国でのワクチン接種のアプローチを調整します。

ワクチンの現物供与が命を救うメカニズムに貢献

COVAXは、全世界でのワクチン接種という意欲的な計画を展開する中で、非常に困難な課題に直面するようになりました。各国の最も脆弱な人々を保護するだけでは不十分であることが、COVID-19ウイルスの変異株によって明らかになったのです。より攻撃的な変異株の出現は、パンデミックを制御するために大量のワクチンが必要になることを意味しました。同時に、疾病の爆発的拡大によって、製造中のワクチンの購入・保有競争も加速し、高い需要、製造現場におけるボトルネック、そして輸出規制が、ワクチンへのアクセスをますます困難にしました。

このような供給に関する制約の増加に直面したため、COVAXは、目標接種率の速やかな引き上げに向けて極めて重要な要請を行う必要がありました。数週間時間と競争しながらドナーと協働し、カナダの支援を得て、この課題に対処する答えを見つけました。それがGavi COVAXのワクチン現物供与イニシアティブです。早くも2020年12月にワクチン現物供与の原則が合意されました。そして、ワクチン入手した国の双方が、その確保量の一部をCOVAXに供与し、低所得国による公平なアクセスの保証を支援する道を開きました。

フランスは、欧州委員会、欧州連合加盟国、ノルウェー、およびアイスランドと連携して「チーム・ヨーロッパ」と共に策定した合意の下で、新しいメカニズムを試した最初の国となりました。ワクチン現物供与イニシアティブには、G7、G20、およびその他多数の国が参加し、世界の首脳が次々に力強い声明を発表しました。アストラゼネカは、現物供与を2021年6月に確約した最初のメーカーです。昨年未までに他のメーカー3社もこのスキームに同意し、ジョンソン・エンド・ジョンソン、モデルナ、ファイザー-ビオンテック社製のワクチンを安全に供与できるようになりました。

4億8,300万

現物供与による4億8,300万回分の追加ワクチンが接種の加速を支援するため今年上半期に出荷予定

ワクチン現物供与イニシアティブでは、パートナーすべてが問題に対応します。我々の総合的な力を示す画期的な取り組みです。2022年1月までに、COVAXはすでに約5億回分の現物供与ドーズを出荷しており、これはCOVAXの総出荷量の50%弱にあたります。2022年上半期も同様の数字が予想され、7月末までに合計9億6800万ドーズを出荷する予定です（詳細は別添6をご参照ください）。これらは、各国の現場のチームが過去最大のワクチン増産を実現するために予測可能性を必要としている現在、極めて重要な進展です。また、低所得国が自国に最も適したワクチンの種類を選択できるようになりつつあることも意味します。

私たちは今後も、現物供与のメカニズムに対応します。ワクチンの有効期限が延び、寄付されるワクチンについて関係する当事者全員が長期的に考えられるようになってきており、早期に特定された問題の大半は、特にアフリカ連合からの要請によって解決しました。²

私たちは現物供与ワクチン1回分ごとに注射器を確保し、目的地への輸送を保証し、無過失賠償プログラムの保険制度に資金を充当する必要があります。「付帯費用」として知られるこれらの費用は、個々では少額ですが、寄付されたワクチンが何百万回分にも達するとまたたく間に膨らみます。Gavi COVAX AMCの前の段階で確保した100億米ドルのうち、すでに2億9,000万米ドルがこの費用の支払いに使用されました。2022年にもワクチンの現物供与が継続し、多数の命を確実に救うためにも、少なくとも5億4,500万米ドルを確保することが非常に重要です。

**まだ終わっていない：
世界は今、COVIDの
収束を緊急に必要
としている**



II 今回のパンデミックは世界的解決策を必要としている。COVAXと協力することで、我々は一つの国が単独で成しえないこと、つまりワクチンを最も必要とする国々とワクチンを公平に分け合うことができる。カナダは引き続きCOVAXファシリティと協働し、今回のパンデミックを乗り越えてすべての人々により健康で安全な未来を作るために、皆が力を合わせることを推奨する。

ジャスティン・トルドー、カナダ首相

COVAXは過去18か月の大半、途方もない困難や、国際市場でのワクチン供給の大きな制約に直面しながら、AMC対象国への十分なワクチン確保に注力してきました。

ドナーは、被支援国のニーズと優先事項に応じた継続的な資金調達を通じて、Gavi COVAX AMCに寛大な支援を提供しました。それによりAMCのポートフォリオは多様化し、現時点の予測では2022年半ばまでに28億回分接種可能なワクチンが入手できます。これは製造メーカーとの契約済みのワクチン、確約された現物供与によるワクチン、そして国際開発金融機関(MDBs)とのコスト・シェアリングで確保されたワクチンの合計です。

オミクロン株への対応、その他変異株への備え、そして2022年以降のリスクの削減

私たちは新型コロナウイルス感染症(COVID-19)についてあらゆる事を学んできましたが、今後パンデミックが辿る道すじを、COVID-19が初めて出現した時より容易に予測できるとは全く思えません。

COVID-19の感染数は再び増加傾向にあります。感染力の強いデルタ株は予測以上に早期の変異を遂げ、多数の国で感染の新しい波を引き起こしました。現在のオミクロン株もまったく同様で、低所得国全体で感染症例数が急増しています。



世界有数の科学者たちの素晴らしい働きによってオミクロン株が南アフリカで発見される以前でさえ、世界通貨基金 (IMF) は「ワクチン接種の継続的な遅れが経済回復の主な重荷になる」として、低所得国の成長予測を再び下方修正しました。³ 新しい感染の波が、全世界のサプライチェーンにさらなる混乱を招いています。

パンデミックは「脆弱性を増幅させる元凶」であり、飢え、貧困、性的・ジェンダーに基づく暴力など、人々の強制的な移動の要因を深刻化させると同時に、国境閉鎖が移民や難民をこれまで以上に弱い立場に陥れています。たとえば、世界の被雇用者の39%を占める女性は、パンデミック中の失業者全体の54%に上ります。⁴

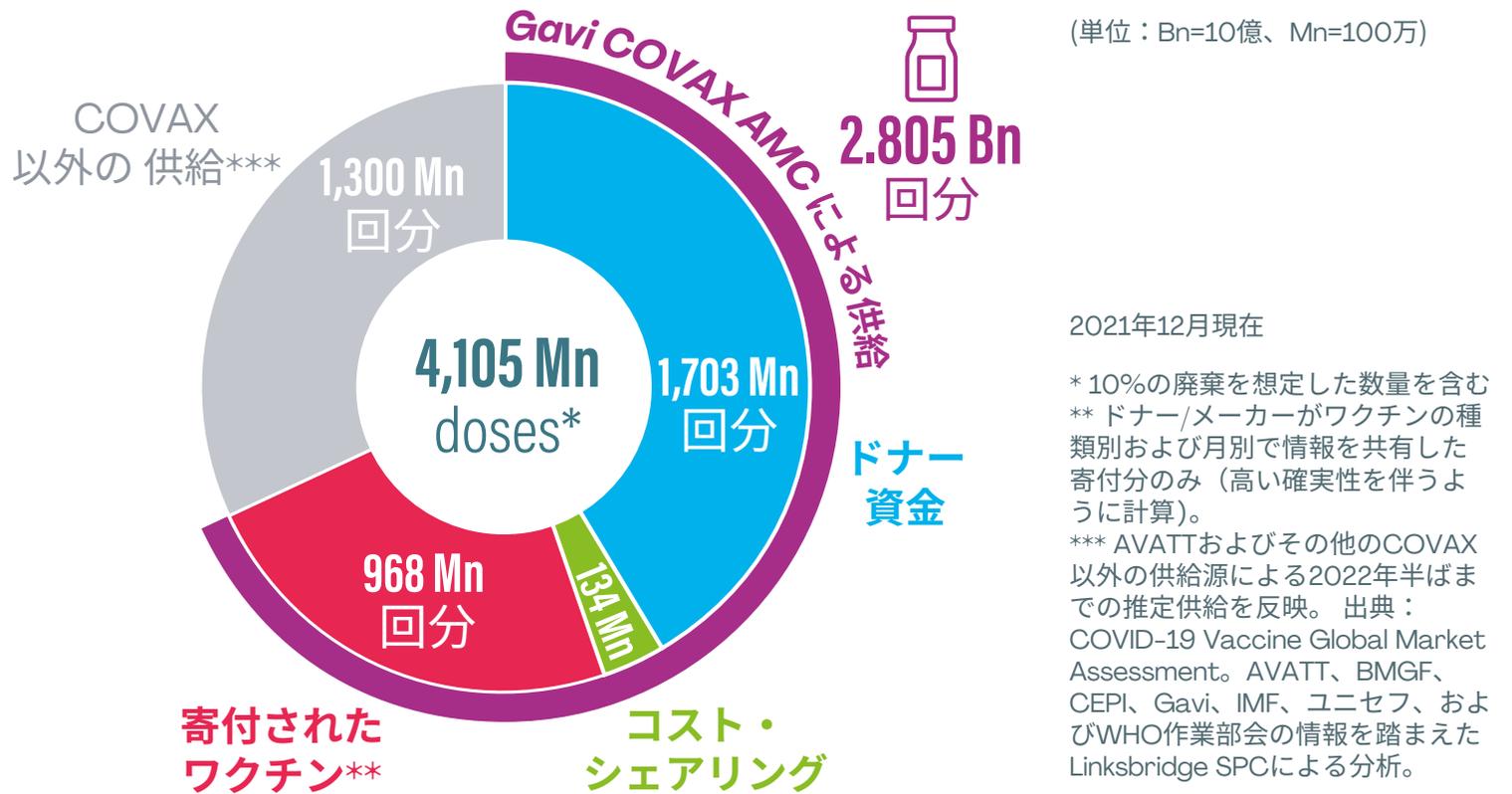
WHOの世界ワクチン接種戦略は、2022年6月までに世界人口の70%がCOVID-19ワクチンを接種することを推奨しています。その日までにGavi COVAX AMCが供給準備を目指しているワクチン28億回分は、AMC対象国が目標に向けて前進するための強固な基盤となります。AMC諸国がAVATTなどの地域イニシアティブを通して二国間協定で確保している追加分、そして最近COVAX外で誓約されたワクチン現物供与を考慮すれば、WHOの目標は実現可能と思われる。



WHOの世界ワクチン接種戦略は2022年6月までに世界人口の70%がCOVID-19ワクチンを接種することを推奨

図表 7

AMC対象91か国に対する2022年半ばまでのワクチン供給予測

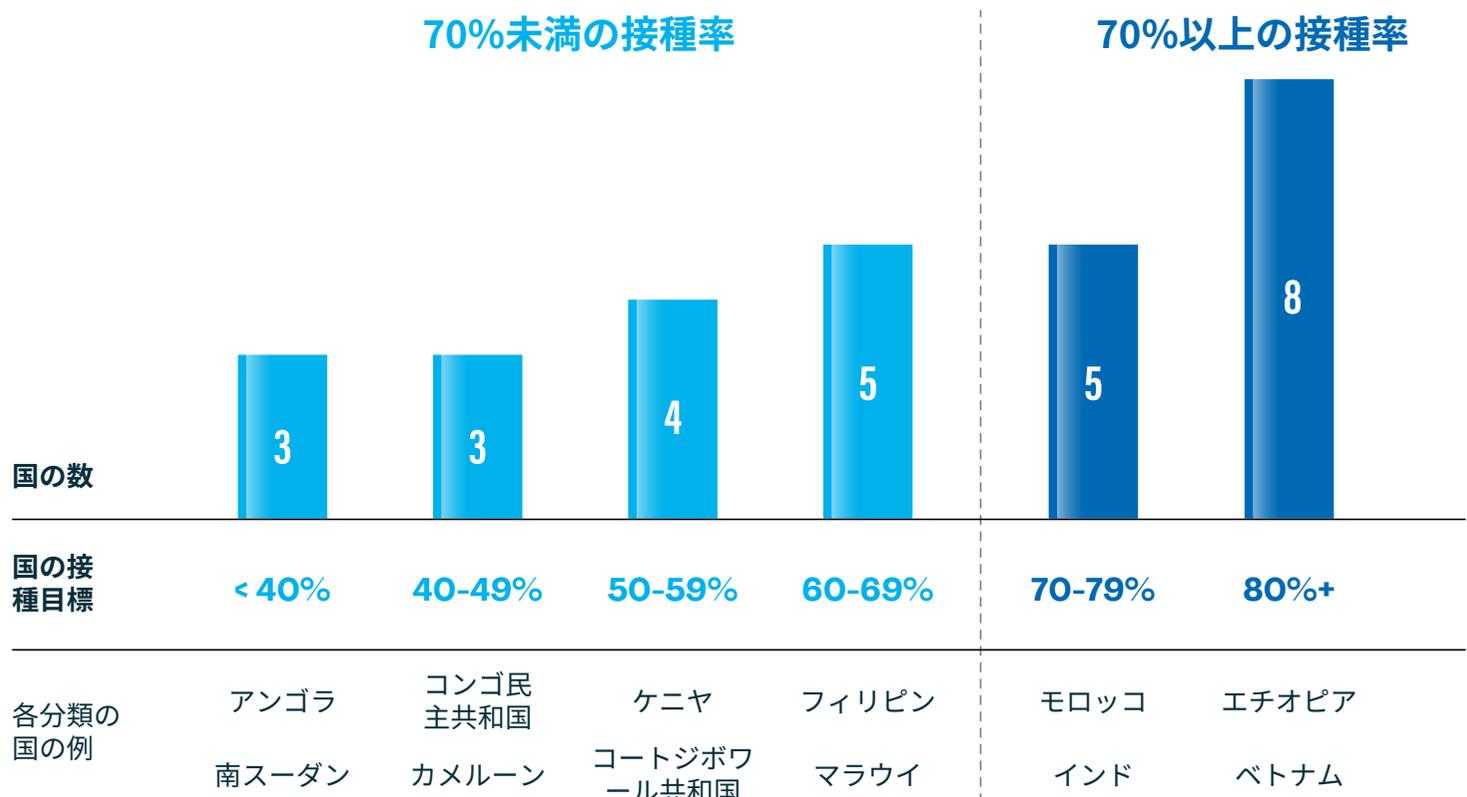


世界的な目標に向けて、実際の構図はより複雑です。AMC各国は自国の優先事項と状況をもとに、それぞれが独自に接種範囲の目標を定めています。図表8に示されているように、目標を70%以上に設定している場合もあり、エチオピアとベトナムは接種80%以上を目指しています。その一方で、人口の年齢がより低い一部の国々は成人全員の接種に焦点を定めているため、目標が70%を下回っています。パンデミックの進行に伴い、これらの目標は変動するでしょう。COVAXとAVATTをはじめとするそのパートナーは、各国が接種目標を達成するための支援を足並みを揃えて行います。

図表 8

2021年12月時点での国々のワクチン接種目標

ワクチン接種目標別の国数、28か国のサンプル – 公開情報やNational Deployment and Vaccination Plans (NDVPs) から捕捉した例示的な予備的分析。



ただし、ウイルスが進化するように、COVID-19ウイルスに関して世界が有する免疫学的知識とワクチンの機能の仕方も進化します。特に最もリスクの高い人々に対し、低所得国が同水準の効果的な防御を維持するにはより多くのワクチンが必要となるため、調達戦略も更新する必要があります。

拡大するブースター需要

高所得国全体で、主に高齢者とハイリスクの人々をターゲットとするキャンペーンとして開始されたブースター接種が、今ではオミクロン株の出現によって加速し、成人全員が確実に接種を受けるための競争と化しています。

WHOの予防接種に関する専門家の戦略的諮問委員会 (SAGE) が、一部のリスクのある人々にブースター接種を義務付けることを推奨したこと⁵、そして2022年にもさらなる推奨がなされる可能性が高いことを鑑みて、低所得国は高所得国と同水準の防御を自国民にも保証したいと考えるでしょう。AMC対象91か国でリスクのある人々にブースター用ワクチンを提供するには、さらに4億1,900万回分が必要だとGaviは推定しています。多数の高所得国と同じように、低所得国が成人人口すべてにブースター接種をしようとするのなら、さらに15億3,600万回分のワクチンが必要となり、合計で約20億回分となります。

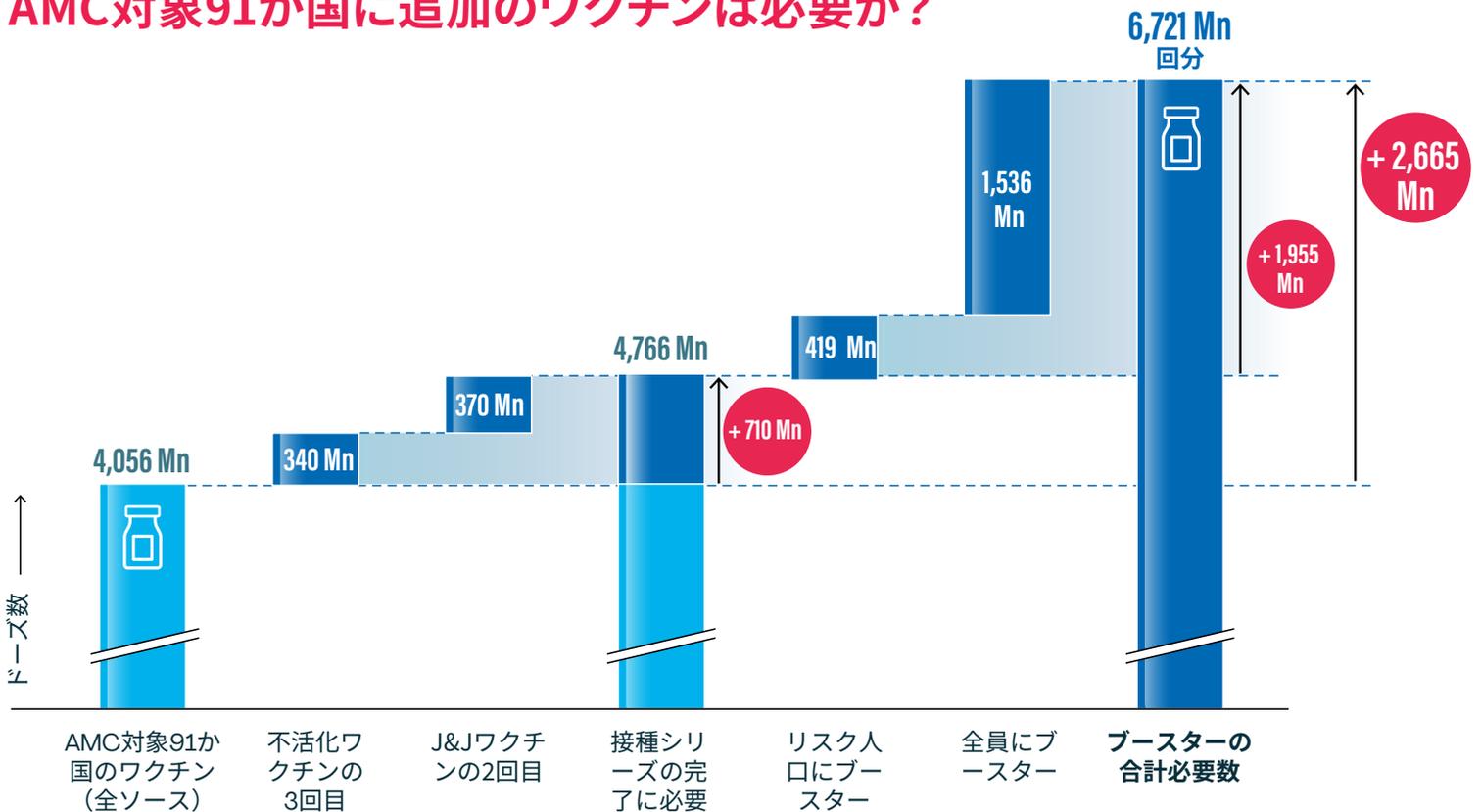
効果的な免疫の達成

COVID-19ワクチンの世界的需要を押し上げているのはブースター需要だけではありません。現在、ワクチンによっては、初回接種シリーズの一部として追加の接種を受けることの必要性を示す証拠が数多く出てきています。SAGEは、60歳以上の人々の初回接種シリーズの一部として非活化ワクチンの3回目接種を、また、免疫不全の人々にはブースター接種をすでに推奨しており、ジョンソン・エンド・ジョンソンのウイルスベクターワクチンの2回目接種が適切であるとも言っています。Gaviは、これら2つの決定に関してだけでも、低所得国は追加の7億1,000万回分のワクチンを調達する必要があると推定しています。

図表9は、初回接種シリーズを完了後ブースターを提供するにあたっての、種々の潜在的な需要リスクを示しています。これらの既知のリスクが実現しただけでも、AMC対象国は最大で27億回分の追加ワクチンが必要となる計算となり、これはCOVAX AMCが事前購入契約 (APA)、ワクチン現物供与、費用共同負担によって今日までに確保したワクチンのほぼ全量に匹敵します。

図表 9

100か国以上がブースター接種を実施中： AMC対象91か国に追加のワクチンは必要か？



(単位：Mn=100万)

高所得国でも若者と子ども向けにワクチン接種が行われますが、それに伴って既存の供給への圧力が高まっています。同時に、低所得国での需要も増加しています。ブースターと子どものワクチン接種に加え、既存のワクチンがオミクロン株などの新しい変異株に対して効果が弱まるようであれば、新しい変異株に適応するワクチンの需要もあるかもしれません。

供給が改善してもリスクは存続

供給側が考慮すべき一連のリスクの多くは普遍的なので、COVAXとCOVAX以外による両方の供給に影響する可能性があります。供給停止の大きなリスクは、輸出規制、製造規模の拡大、ワクチン候補に対する規制当局の承認の遅延や承認の失敗に関連していることが、これまでの経験から明らかになっています。インドからの輸出制限の段階的な解除など、一部の供給制約が緩和されて明るい兆候が見えていますが、供給側のショックは少なくとも2022年半ばまで続くという予測に基づき計画を立てることが妥当でしょう。

II COVIDワクチンへの世界中からのアクセスを保証することは、パンデミックとの闘いに不可欠であり、欧州投資銀行は世界中でCOVAXを支援することを嬉しく思う。革新的なCOVAXへの投資機会を通して関与を拡大することによって、手頃な価格での新規の供給を実現し、国々がより多くのワクチンを手に入れるようになる。これは全世界でのワクチン接種の増加に極めて重要である。

ヴェルナー・ホイヤー、欧州投資銀行総裁

GAVI COVAX AMCは 世界規模の難題にど のように対応するか？



II あらゆる困難にもかかわらず、COVAXは10億回分以上のワクチンを提供した。COVAXは完璧ではないが、多数の国にとってワクチンを入手する唯一の手段となっている。我々はこの投資機会を支援することで、2022年にCOVAXが更なる成果を挙げ、AMC対象国にワクチンの供給に伴うより大きな確実性とレジリエンスを提供できるようにする。

ルトノ・マルスディ、インドネシア共和国外務大臣

オミクロン株の出現によって人々は、世界のどこであれ、COVID-19危機の終わりから程遠いことを思い知らされました。

ウイルスは常に変異し状況に適応しています。世界を感染症から守る方法も同様でなければなりません。Gavi COVAX AMCは今、少なくともこれまで以上の緊急性をもって異なる運用段階に移行する必要があります。危機と不確実性の中で、AMCは各国にさらなる安定性とレジリエンスを提供し、独自の戦略を実行できるよう支援する必要があります。パンデミックの進行に伴い、COVAXがこれら基盤の上に立ちグローバルなメカニズムとして機能することによってのみ実行可能な、次のようなタスクがあります。

- ワクチン市場がAMC対象国の利益となるように管理され、適切な製品の確保が保証されること。および
- 国レベルと地域レベルで多数の供給源を持ち、需要と供給を調整すること。

今、このグローバルなメカニズムを強化する時が到来しています。オミクロン株に対応し、他の変異株に備え、2022年にAMC対象国が直面するリスクと不確実性を管理するという特有の課題は、今後3か月にわたり最低52億米ドルの追加資金が必要になることを意味します。この資金によって、AMC諸国へのCOVAXの支援能力を最大化し、各国の接種計画と目標接種率により大きな安全性とレジリエンスを提供することができます。

Gavi COVAX AMCはこの資金によって、6億回分のパンデミック・ワクチン備蓄を設立し接種率を高めて需要と供給の両方のリスクを緩和する、必要な接種関連用品を調達してワクチンの現物供与を必要とする国々に確実に届ける、およびGaviの比較優位性を足場として国内の接種体制を強化し接種を進める、という差し迫った3つの要素で構成される戦略を実施できるようになります。この戦略のもと2022年には、GaviはAMC対象91か国のうち、支援を最も必要とする最低所得国の特定のニーズに引き続き注力します。

要素I: パンデミック・ワクチン備蓄 (37億米ドル)

過去18か月間にわたるパートナーの支援のもと、Gavi COVAX AMCは、ドナーの財政支援やコスト・シェアリングを活用してワクチンのポートフォリオを構築することができました。各国はこれによって、目標接種率を世界の目標水準へと引き上げるための2022年の接種計画を事前に立案することができます。

主に供給中心のアプローチから、AMC対象国の需要に応じた、機敏性と柔軟性がより高い戦略へと方向転換する必要があります。それを背景とした2022年のGavi COVAX AMCの役割は、AMC諸国がオミクロン株その他の変異株に備えて対応し、さらなるリスクと圧力を緩和できるという自信を各国に与える手助けをすることです。私たちは、AMC各国が全世界の目標接種率70%を支持し、それぞれの優先事項や状況に応じた計画を実行するための支援を行います。

その達成に向けて、Gavi COVAX AMCは、世界のワクチン需給の一括化とリスク管理の手段として機能することができます。資金を前倒しで入手して多様なワクチンで構成される**パンデミック・ワクチン備蓄**を提供し、リスクと不確実性を管理するのです。

Gaviが製薬会社への注文を確定できるよう、2022年第1四半期のできるだけ早期に事前の資金調達が必要です。Gaviが経験から学んだのは、現金と、不測の事態が生じた場合の危険準備金にかなり前もってアクセスできることが、ワクチン確保の鍵を握るという点です。財源を確保しておけば、適切なタイミングに発注して2022年の1年間を通しワクチンを段階的に配布でき、また、より高い予測可能性をもって各国が独自のワクチン接種戦略を計画するのに役立ちます。



Gaviはかなり前倒して現金と条件付き資金にアクセスすることがワクチン確保の鍵を握ると経験から学んだ

備蓄用のワクチンは主に、一連の既存の事前買取協定 (APAs) 内のオプションを使用して確保されることが想定されており、各国の需要や希望に応じて追加の取引が実施されます。2022年に各国が直面する可能性のある需要（一次接種の拡大、ブースター用、または変種適応型ワクチン）および供給ショック（製造のさらなる遅れや中断による）の両方に対する、柔軟性と安全性を提供するように設計されています。供給遅れのサイクルを断ち切り、低所得国が引き続き遅れをとることがないようにするには、早期の見通しが重要です。

各国が2021年を通して予防接種プログラムを拡大するに伴い、異なる製品への需要がより明確になってきました。備蓄用に選択されるオプションは、各国のプログラム要件とワクチンの接種能力に合わせた、必要で最適な製品の組み合わせになります。ウイルス進化の状況によっては、新たな変異株に効果を発揮するように設計された改造ワクチンを各国が購入できるようになるかもしれません。

次ページには、2022年中に浮上しうるいくつかの現実的なシナリオに、備蓄を使用して柔軟に対応する方法が明記されています。



パンデミックワクチン備蓄のシナリオ

シナリオ1:ブースター接種により需要が大幅に増加する場合

AMC諸国のほとんどが、例えばすべての成人を対象にするなど、人口の多くを占めるグループにブースター接種を拡大する決定をしています。

- 備蓄による対応:**COVAXは、ブースターとして、特にCOVAXポートフォリオの中で一次接種に使用されているワクチン、特に異種ブースターとして使用されていることを示すワクチンの調達に重点を置くでしょう。このシナリオでは、数種類のブースターワクチンを中心にポートフォリオが統合される可能性があります。多くの高所得国がすでにブースター接種を計画または展開していることを考えると、COVAXができるだけ早くブースターワクチン確保のため、順番待ちの列に並ぶことが重要です。

シナリオ2:より高い免疫回避能力を持つ新規変異株が登場した場合

既存のワクチンの有効性が低い新しい変異株が出現し、十分な防御を確保するために新規の変種適応ワクチンが必要となる場合

- 備蓄による対応:**COVAXは新しい変異株に対応したワクチンの調達に専念するでしょう。これらは、COVAXポートフォリオ内の既存ワクチンの改良型である可能性もあります。あるいは、CEPIによるシード投資などの結果、COVAXが優先的に入手できる新規ワクチン(開発中のものを含む)である可能性もあります。結果としてCOVAXのポートフォリオが拡大し、これらの新しいワクチンがWHOの緊急使用リストに掲載され、各国に供給される可能性があります。このシナリオでは、変種適応ワクチンの供給は、当初は限定的である可能性が高くなります。生産量に制約がある一方で高い需要が予想されるためです。COVAXにとって、これらのワクチンのシェアを早期に確保することが重要でしょう。

シナリオ3:供給ショック

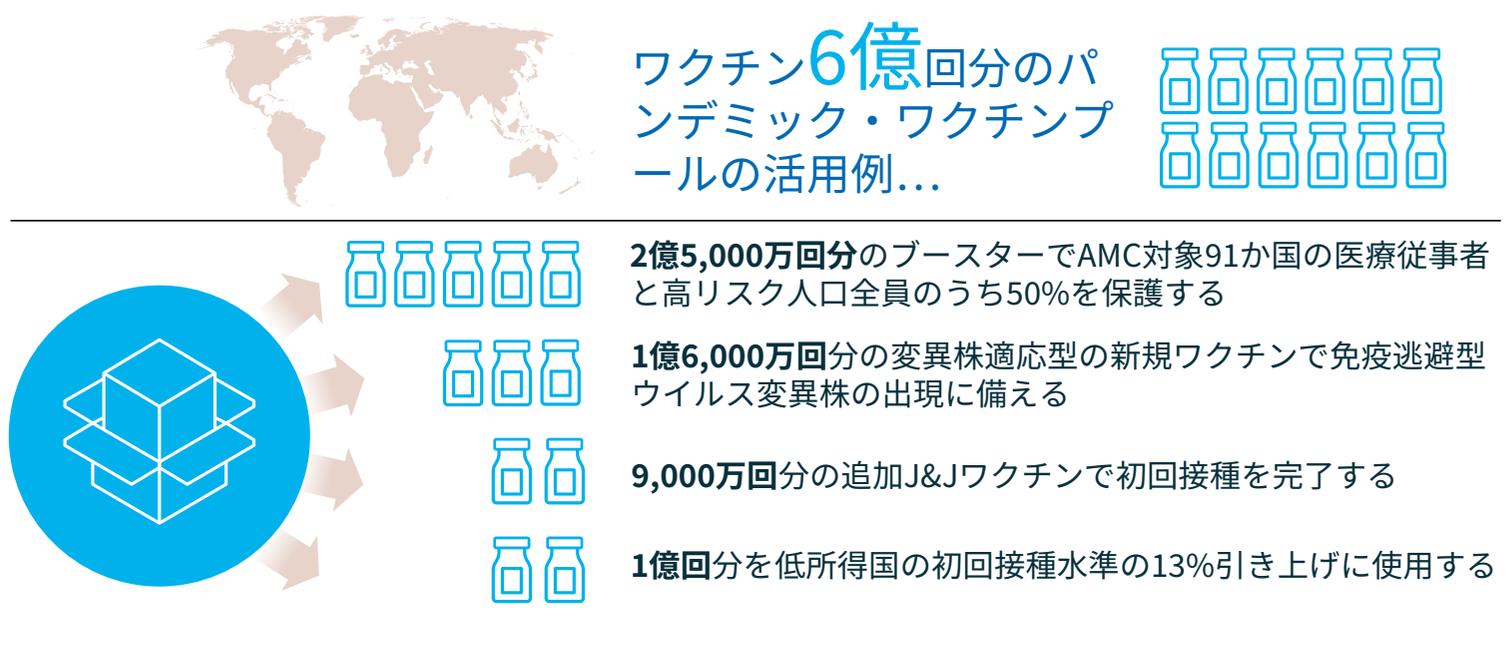
AMC諸国の需要は予想通りだが、供給状況が予想より悪化した場合(例:高所得国のブースター需要による供給不足、ブースターや変異型適応ワクチンの供給制限による輸出制限の導入、さらなる製造制限など)。

- **備蓄による対応:**COVAXは、各国からの希望が最も高いワクチンをタイムリーに供給できる信頼できる製薬会社から、より多くのワクチンを調達することに重点を置くでしょう。これらのワクチンは、COVAXの既存のポートフォリオから調達される可能性が高く、契約中の既存のオプションを活用することで、各国のCOVID-19予防接種プログラムに全く新しいワクチンを導入する必要がないようにします。これらのワクチンのリードタイムは少なくとも数ヶ月であることから、2022年前半の量を確保するためには、今すぐ発注する必要があります。



図表 10

AMC対象国のニーズに、パンデミック・ワクチン備蓄をどのように活用し対応するか？



注：上記の例は例示のみを目的とする

潜在的な需要と供給リスクの水平走査に基づき、Gaviはワクチン6億回分の備蓄がAMC対象91か国に最低限の防御と保険を提供すると推定しています(図表10を参照)。

AMC91か国すべてが目標を達成し、全世界の目標接種率70%に近づくために必要なワクチンの数量を確定することは不可能です。リスクと不確定要素が多すぎるからです。前章では、「AMC対象91か国が成人人口全体をワクチンで守るためには、2022年には最大で追加ワクチン27億回分が必要かもしれない」という需要サイドのシナリオを示しました。もしAMC対象国の一部が高所得国と同じ道を辿り、青少年のワクチン接種を行うようになれば、この数字はさらに増加します。

パンデミック・ワクチン備蓄の最低数量であるワクチン6億回分を確保するには、少なくとも37億米ドルの資金が必要です。50億米ドル以上の資金を調達すれば、最大で追加の9億回分のワクチンが確保でき、時間の経過とともにより多くのリスクと国を対象とした供給を保証することとなります。資金が約20億米ドルどまりの場合、追加で確保できるワクチンは3億回分にとどまり、備蓄を使用して国々に供給を保証する能力が制限されます。

要素II: 現物供与に必要な付随費用の資金確保 (5億4,500万米ドル)

COVAXの供給を補足するワクチン現物供与は、2022年も続くことが期待されています。ドナー各国は2021年12月初めに、Gavi COVAX AMCを通して2022年6月末までに約9億回分のCOVID-19ワクチンを配布すると確約しました。

COVAXが受け取ったワクチン現物供与の大半は、COVID-19ワクチン本体です。しかし、ドナーからワクチンバイアルを受け取り、AMC対象91か国に出荷可能な形にし、診療所への輸送準備を整えて安全に接種するには、さらに追加の予防接種関連用品、物流、規制上の免責が必要です。現物供与の初期段階では、Gaviは特定の活動に貼り付けられていない資金をこれらの追加支出に使用することができました。調達された100億米ドルのうち2億9,000万米ドルが最初の6億5,000万回分の供与のために使用されました。このように、ドナー資金を利用した完全充填ワクチンの費用対効果は非常に高いものとなっています。

現物供与を継続し、注射器不足に取り組み、そして2022年中にドナーからの提供が期待されているワクチンの配布を可能とするために、今、さらに多くの資金が緊急に必要とされており、その費用は5億4,500万米ドルと推定されています。

世界のワクチン供給市場ではついに制約が緩和されはじめました。それに伴い、現物供与による大量のワクチンと、Gavi COVAX AMCが購入したさらに多くのワクチンが各国に届けられています。受領国に対し予測可能な安定供給を行うために、Gaviとアライアンスパートナー、AVATT、ドナー、および製薬会社の間で強力なパートナーシップが必要です。



WHOの掲げる世界ワクチン接種目標70%を達成するには、全世界での接種拡大に更なる支援が必要

要素III:各国の保健システム強化(10億米ドル)

Gaviアライアンスのパートナーは、WHOによる世界の接種率70%という広義の目標のもと、各国がCOVID19 ワクチン接種戦略を実行できるよう、全面的に協力します。

目標達成に向けて、世界の国々がより多くのワクチンを接種できるよう、提供可能なワクチン数を増加するさらなる支援が必要です。そうすれば、最も脆弱な人々をはじめ誰も取り残されないことが保証できます。進捗は見られるものの、多くの国、特に低所得国のワクチン接種能力は、依然として高所得国を大幅に下回っています

このような接種ギャップの縮小は、AMC諸国全体が公平なアクセスを手にする上で不可欠です。Gaviは、ワクチン接種を助ける触媒的資金を追加しワクチンの調達資金と一緒にすることで、AMC諸国に 技術支援、運用資金、能力開発サービスを提供し、各国が適切な時期に適切なワクチン製品を受け取る能力を構築することができるようになるということを学習しました。



パキスタンはCOVID-19 ワクチン接種能力形成のため、定期予防接種サービスを強化しています。

パキスタンはCOVID-19ワクチンの接種拡大に大きな成功を収めており、人口の約40%が初回接種を終え、12月中旬までに四分の一以上が2回目のワクチン接種を終えます。非常に素晴らしいのは、同国が接種支援のためにGaviの資金と技術援助を一つのパッケージとして使用し、通常の予防接種に生じるリスクを緩和しながらこれを行っていることです。

パキスタンは、Gaviのコールドチェーン支援を活用して国と地域のレベルでワクチン保管能力を拡大すると共に、超低温輸送のための大規模な能力を構築し、定期接種用のワクチンを移動させることなくCOVID-19ワクチンを必要量保管できるようにしました。また大量のCOVID-19ワクチンを管理できるように、Gaviによる技術支援の優先分野としてサプライチェーンも更に強化しました。また、COVID-19ワクチン配布支援(CDS) 資金を利用してより多くのワクチン輸送のための冷蔵トラックを迅速に調達しました。CDS資金は、既存のワクチン接種者が通常の定期予防接種に集中し続けられるように、COVID-19ワクチンの接種者の補充に使用されるとともに、最近実施された麻しん風しん混合ワクチンキャンペーン(11月の12日間に9,200万人以上の子どもたちにワクチン接種を実施)にも活用されました。

パキスタンの予防接種プログラムは、ワクチン接種会場での接種とともに、コミュニティや学校での接種キャンペーンも強化しています。この組み合わせにより、ピーク時には一日に170万回分ものワクチンを接種しました。



0.15%

一日あたりのワクチン接種数が総人口の0.15%を下回る国に追加支援を提供

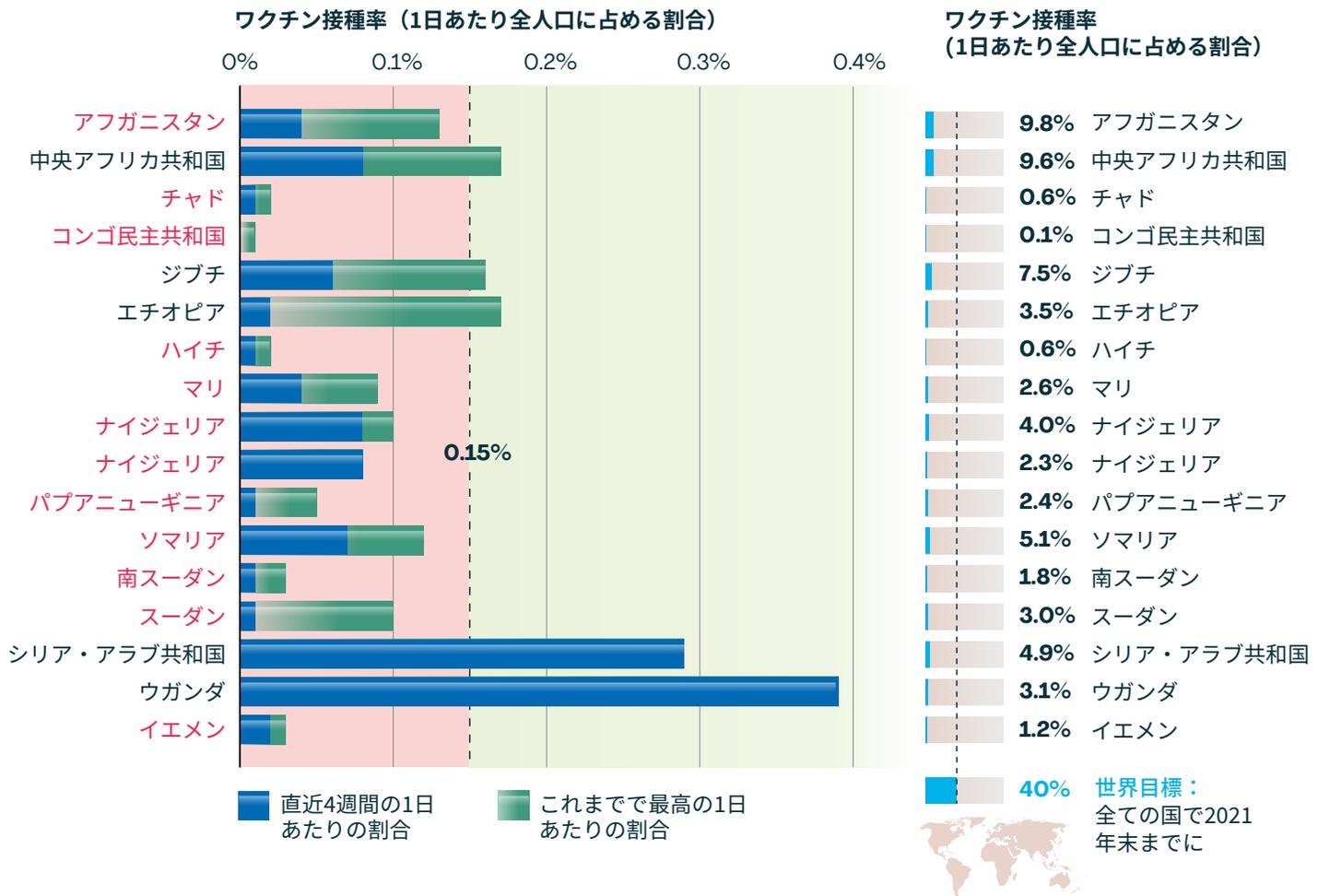
このような専門知識を持つことで、Gaviは各国の最も疎外された脆弱な人々により高レベルのアクセスを保証することに集中できます。Gaviはこれまでに調達したCOVID-19ワクチン接種資金で、次のような活動を支援してきました。ワクチン接種へのアクセスを阻害するジェンダー関連の障壁を減らすため、女性のワクチン接種者を育成（アフガニスタン）、民間セクターとの提携により農村へのドローンを活用したワクチン配布（ガーナ）、難民と障害者へ迅速なアクセス提供（ネパール）、パキスタンとGaviが共同で作り上げ、既に未接種児を対象に実施されていたシステムの活用などです。

さらなる活動を行うために、2022年、COVAXには最低10億米ドル（Gaviに6億米ドル、ユニセフが並行して調達予定の4億米ドルの支援）が必要です。Gaviはこの資金によって、2022年末まで技術援助を拡張・拡大し、各国の低温・超低温輸送能力のギャップを埋め、各国の高い需要を考慮してCOVID-19ワクチン配布支援（CDS）の割り当て資金を合計CDSが11億米ドルに達するよう補給します。ユニセフの資金調達は、COVAX人道バッファを通じたワクチン接種支援と、その他の緊急かつ人道的な状況への支援提供に絞られます。

今日までに提供された接種資金に関する経験を踏まえ、Gaviは従来その中心的活動であった定期予防接種プログラム支援への申請資格をもつ57か国に技術援助を維持・拡大することに焦点を当てます。更には、最大の困難に直面している20～25か国（主に低所得国）に常に特別な注意を払います。リアルタイム評価によってワクチンの接種能力と使用率をモニターし、ワクチン接種率と資金が最低の国々、つまり一日あたりの接種率が人口の0.15%未満の場合には追加支援を提供します。図表11は、この接種率を常に下回ったことを理由に私たちが特に重点的にモニタリングしている17か国を示しています。

図表 11

接種能力の強化のためにGaviから追加支援を必要とする AMC対象国のリアルタイム評価



国、地域、および世界のチームが協力し、各国の計画におけるワクチン接種の重大な障害を特定し、接種の改善に必要な支援を保証します。これには、COVID-19ワクチン配布支援 (CDS) 資金、マネジメントサージサポート、技術援助、そして各国の状況に応じた個別支援が含まれる場合があります。各国が新しい革新的な集団予防接種のアプローチを進めるには南南学習が重要になるので、そのためのスキル獲得を目的として新しいパートナーによる技術援助も取り入れます。

各国は上記の支援により、定期予防接種やその他の不可欠なサービスを維持しつつ、サービス供給能力の拡大、廃棄ワクチンの削減、ワクチンへの信頼度の向上、誤情報への対処を行うことができます。どのような場合でも、調整は成功に不可欠です。ワクチン調達と同様、各国が上記のギャップを埋めるのに利用できる財源はGaviからの資金のみではありません。Gaviの基本理念である費用負担の原則に基づいて、AMC対象91か国のうち多数の中所得国は、接種体制の強化やMDBが同意した資金調達枠の活用のために、国内資金を確保することができます。しかし資金へのアクセスはAMC対象国ごとに大きく異なります。最新のデータによれば、現在、ワクチン配布に一人当たり10米ドル以上の外部資金を使用する国が25か国ある一方で、一人当たり2米ドル未満の国が22か国あると推定されています。

Gaviは速やかに行動することによりギャップを埋めることができます。保健システムの能力が低くGaviが強力な比較優位性をもつ支援先国においては特にそうです。COVAXのワクチン接種資金に必要な10億米ドルの要請は、MDBからの支援が期待される最新の支援パイプラインを考慮して計画されています。たとえば、世界銀行は各国への支援に75億米ドル以上を承認しており、そのうち30%はワクチン接種のための資金です。目下、25億米ドル相当の将来のプロジェクトが25件開発中となっており、これには接種のための大規模な追加資金が含まれます。従って、ワクチン接種に必要とされる資金を多数の国々、特にCOVAXがフォーカスをあてる最大のギャップを抱える国々への支援に役立つはずです。このような活動は、MDBの支援が期待通りに、あるいは必要なスピードで実現しないことを想定して厳格にモニターされ、状況によってはCOVAXへの支援要請が予測以上に増える可能性があります。

2021年12月、Gavi理事会は接種の加速が緊急に必要なとの認識のもと、より強固な調整メカニズムの設立を承認しました。これには、ワクチン接種のための臨時運営委員会が含まれます。委員会の目的は、アライアンスパートナーだけでなくアフリカCDC/AVATTといった主要な外部ステークホルダーも取りまとめて、各国への支払いを迅速に行い、配布の全体像を示すことにあります。運営委員会は、新しいグローバル・リード・コーディネーター、テッド・チャイバンの業務を支援します。これにより、各国がワクチン接種目標達成に向けて能力を拡大できるよう、より多くの、かつ焦点を絞った支援を足並みを揃えて実施することができます。

II 短期のワクチン不足の解消に向けたドナーの貢献に感謝すると同時に、我々はCOVAXおよびパートナーと緊密に協働して供給スケジュールの可視性を確保することを切望している。我々の保健システムは今後供給されるワクチンを迅速かつ安全に、効果的に接種することができる。

マッキー・サル、セネガル共和国大統領





アフガニスタンにおけるリアルタイムデータとジェンダーに配慮したプログラムによって、ワクチン接種へのアクセスが急増

2021年のアフガニスタン政府崩壊は、広範囲にわたる医療サービスの混乱を招き、COVID-19ワクチン接種を加速する努力が大きく阻害されました。10月半ばまで、一日あたりに提供されたワクチンは1万5,000回分を下回っていました。緊急支援の取り組みが始まり、Gaviの手持ちの800万米ドルの支援を利用して、ワクチン接種者の採用と訓練を急速に進め、需要を生み出す努力を強化しました。

タリバンの下で文化的な制約が厳しくなる中、採用したワクチン接種者の50%以上が女性になるよう意識的な努力がなされました。その結果、「ワクチン接種促進キャンペーン」では、52%が女性に接種され、女性の接種率が予想を下回った州はごく少数となりました。このキャンペーンではリアルタイムのデータも活用され、ダッシュボードには合意のもと設定されたパフォーマンス目標に対する進捗状況が明確に表示され、一日の終わりにはWhatsAppによる更新情報が各州のチームに共有されました。これにより、リアルタイムでのトラブルシューティングとアクティブラーニングが可能になり、進行中のワクチン接種の改善に役立てることができました。

このようなアプローチにより、短期間で1日平均45,000回分という3倍の接種量を達成しました。これは、8月中旬の政府崩壊による混乱の規模を考慮すれば大きな成果です。現在、人口の10%近くが2回接種を受けており、その半数以上がCOVAXによって提供されたものです。

ネパールは公平で包括的なワクチン接種に注力

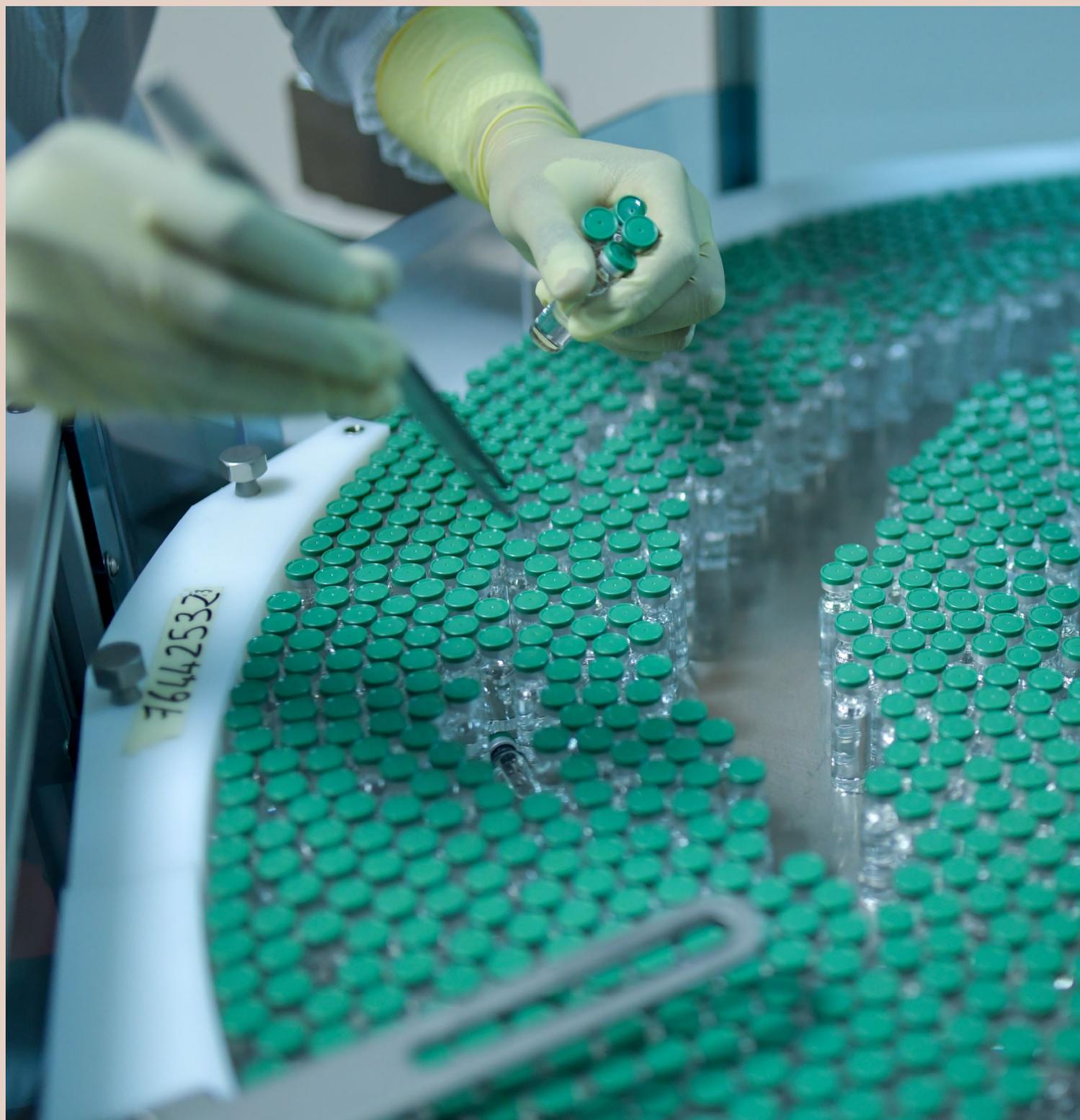
ネパールは、2021年3月初めにCOVAXワクチンの初回接種分を受け取り、アジアでCOVID-19ワクチンの大量接種を始めた最初の国の一つになりました。

Gaviによるコールドチェーン設備への支援を受けて、同国は、COVID-19ワクチン展開のための保管能力を改善・拡大することができました。追加の技術援助によって、計画立案と、トレーニング、監督、有害事象の監視強化、力強い需要喚起計画の策定などの準備が進みました。国の現状を考慮した110万米ドル相当の支援によって、保健省チームによる迅速なワクチンの展開が可能となり、特に2021年7月から9月まで、ワクチンの接種優先者に焦点を当てて、ワクチン接種率を4%から20%へと引き上げました。

COVID-19ワクチンの展開は公平性と包括性の向上に大きく貢献しています。他の多くの国々と同様、ネパールは、現場の最前線で働く人々と高齢者を優先して最初の一斉接種を行いました。より多くのワクチンが入手可能になるに従い、同国は社会の弱者への接種を優先しました。移動にかかる障壁を最小化するために、難民と障がい者には、ジョンソン・エンド・ジョンソン製の1回接種型ワクチンへのアクセス権が優先的に与えられました。ハイレベルのマルチステークホルダーであるGender in Humanitarian Action Task Team (GiHA-TT) も、公平なアクセスに重要な役割を果たしています。

国全体でワクチン受容度が驚くほど高く、「実質的に誰も接種を躊躇しない」と保健省のワクチン接種部門責任者であるDr Jhalak Sharma Gautamは10月に述べています。このような予防接種への高い関心によって、一日あたり30万回もの接種が可能となりました。12月中旬までに、ネパールは約2,730万回分のワクチンを確保し、そのうち約1,350万回分がCOVAXから提供されています。12月中旬の時点で、ネパール人口の35%が少なくとも1回の接種を終え、30%が完全に2回接種を終えました。

GAVI COVAX AMC の資金調達



II 私はG20ローマ・サミットにおいて、世界の人口の7割にワクチンを接種するという目標を支持する旨を表明した。これは、2021年6月に我が国が共催したCOVAXワクチン・サミットで日本がCOVAXへ誓約した合計10億米ドルの支援に続くものである。私は世界の首脳が引き続き協力し、安全かつ効果的なワクチンへの公平なアクセスを向上させよう求める。

岸田文雄、日本国内閣総理大臣

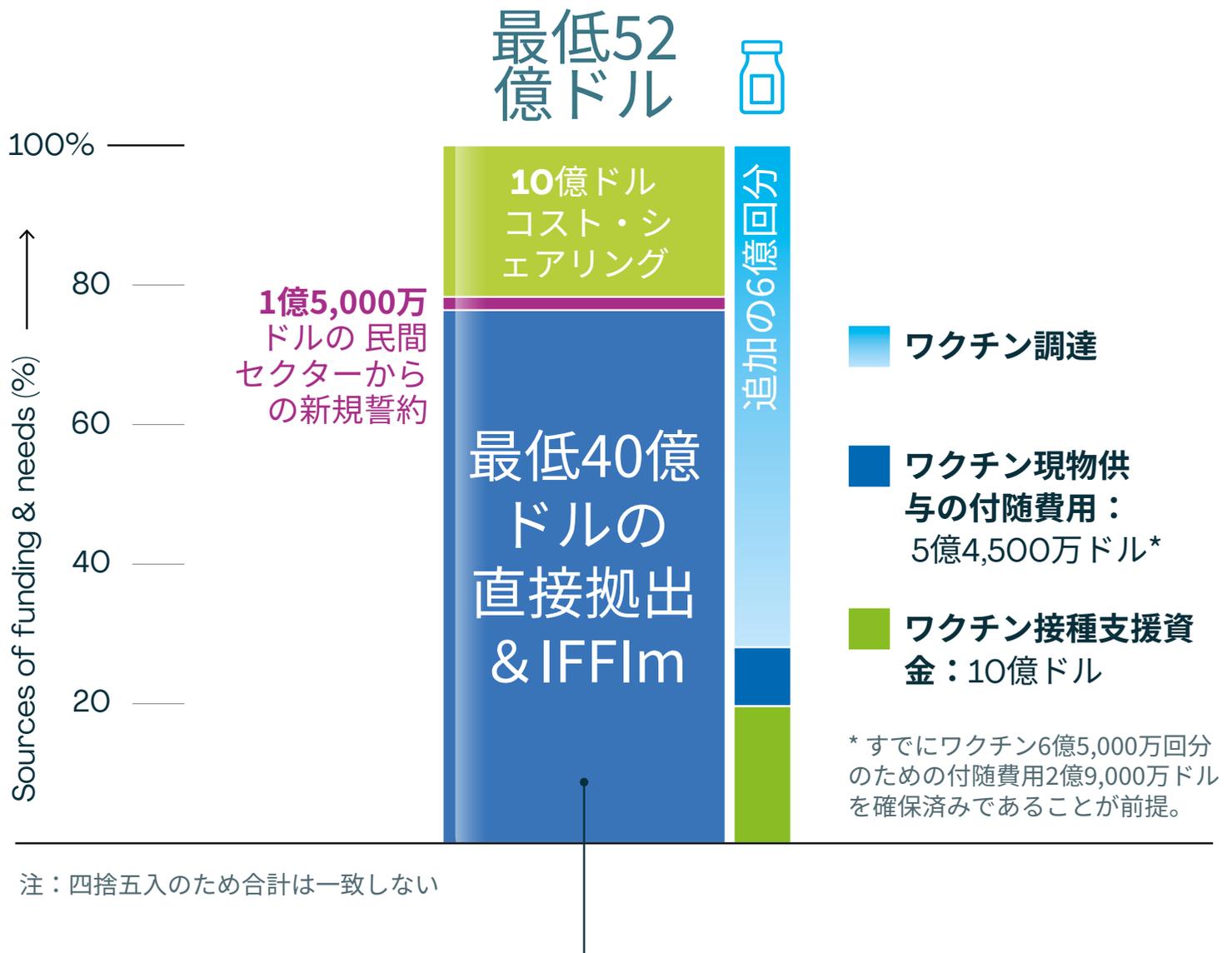
今、迅速な対応が求められています。オミクロン変異株による危機に対処し、他の新規変異株の出現に備え、2022年夏までに世界人口の70%にワクチン接種をするという目標を達成するには、持てる力をすべて注ぐ必要があります。世界が一丸となって、低所得国の成人に高所得国と同水準のワクチン接種率を確保すれば、その翌年には94万～127万人の死を防止でき⁶、国によってはパンデミックの経済費用が半減できると、最近のシミュレーションで示唆されています。⁷ 変異株との闘いに勝つために、私たちはドナーとパートナーに協働を呼びかけます。この共同努力の一環として以下を行います。

ドナー国だけでなく、企業、慈善団体、財団にも、2022年3月までに直接の前払いによる最低40億米ドルの拠出を確約するよう呼びかける：

2022年第1四半期の終わりまでに思い切った誓約を取りつけることで、パンデミック・ワクチン備蓄の立ち上げ、ワクチン現物供与の増加に伴う付随費用の確保、各国が史上最大のワクチン接種に向けて次の段階に進む支援ができます。

図表 12

Gavi COVAX AMCの資金調達



15億ドルは以下の誓約によりIFFImから引き出し可能：

- 毎年2億1,000万ドルを10年間
- 毎年1億5,000万ドルを15年間

Gaviの革新的な資金調達手段を活用してインパクトを前倒しする

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 蔓延との闘いは一刻を争いますが、ドナー国にとっては、短期間に高額な資金を確保するのに国内予算を圧迫する可能性があります。従ってGaviは複数の柔軟な投資オプションを用意し、資金を最速で活用できるようにします。

IFFIm (予防接種のための国際金融ファシリティ) は革新的な金融ツールで、ドナーは支払いを複数年に分散できる一方で、長期の財政コミットメントを行います。それをもとに債券を発行し、資金が即座に前倒して調達できるようになります。このメカニズムは10年以上活用されており、Gavi、CEPI、COVAXのインパクトを加速させています。2021年11月、IFFImは2026年4月のワクチン債の募集を2億5,000万ドル引き上げ、10億米ドルにしました。この極めて重大なタイミングでの決定は、必要な資金を前倒して調達し公衆衛生の緊急事態に対応するというIFFImの力を示しています。

欧州投資銀行との協力で開始した4億4,000万ユーロ相当の**資金前倒し調達ファシリティ**により、ドナーはゼロ金利のメカニズムを利用できるようになります。署名済みの契約をもとに早期に現金をコミットし、さらに将来(最長5年)にわたってGaviに資金を支出する可能性を提供するものです。

上記2つのメカニズムは、ドナーがその予算サイクルを維持しつつ、Gavi COVAX AMCに即座にインパクトを与えうる財政支援ができるようなオプションを提供しています。

私たちは引き続きMDBや商業資本提供者と密に連携し、GaviやAMC諸国がより速く資本にアクセスできるよう、流動性、バランスシート及び前払いの支払いリスクに対応する一連のツールを開発の開発を行います。

共通の目標に向けた最低1億5,000万米ドルの拠出を民間セクターに呼びかける

- II** 世界の安全を守ることは、誰も取り残さないということ。UPSとZiplineは、COVAX AMCによる史上最大最速のグローバルなワクチン接種によってすべての人々を支援するために、喜んで尽力する。

ニコル・クリフトン、UPS財団ソーシャルインパクト担当プレジデント、およびケラー・リナウド、Zipline共同創設者兼CEO

- II** Mastercardは、当社の技術と財源を最大限に活用して、ワクチン調達とその公平な配分を加速する支援を行う。世界がパンデミックから回復するかどうかはそれにかかっている。

マイケル・フロマン、Mastercard戦略的成長副会長兼社長

官民連携パートナーシップとしてのGaviには、インパクトをもたらすために企業と協力してきた長い実績があります。2020年のCOVAX発足当初から、Gavi COVAX AMCは2億3,400万米ドル以上を民間セクターから調達しました。この実績と民間セクターとの協働経験から、私たちは今一度、民間セクターにCOVAX支援とパンデミックの終息を呼びかけます。

このアプローチの一環として、Gavi COVAX AMCへの企業とその従業員、消費者からの直接の寄付による支援があり、またVaccine Forward Initiative、Go Give Oneキャンペーン、(RED)との連携によるCODE (RED)、グローバルファンドなど、一般向けのイニシアティブを通じた支援もあります。

我々は民間企業に対して資金だけではなく、重要な専門知識や利点を予防接種普及に取り組む各国と共有して支援するよう求めています。例えばUPSとの強固なパートナーシップは、COVAXを含む様々な手段で10億回分以上のワクチンの提供を支援してきました。また、ユニリーバなどの企業と協力し、行動変革に関する深い専門知識とノウハウを活用して、インドやインドネシアで手洗いと予防接種の普及に努めています。Gaviはイノベーションを推進する必要性から、ドローン配送のパートナーに触媒融資を提供しました。それにより2016年、Ziplineはルワンダとガーナでワクチンと必須医薬品の配送を開始し、現在はCOVID-19ワクチンを必要としている人たちに届けています。データシステムの潜在能力が最大限に活用されるよう、Zenysis Technologiesは高度な機械学習プラットフォームを使用してCOVID-19コントロールルームを構築し、リソースを配置すべき場所をピンポイントで特定しています。また、Mastercardは、モーリタニアやその他の国々のすべての診療所に、持ち運び可能な電子医療記録を含む非接触型カードを提供しています。





ガーナとGaviがイノベーションの推進で協力：COVAXのワクチンをドローンで空輸

イノベーションへの取り組みと民間セクターの専門知識活用の一環として、Gaviは2019年、ガーナ政府、医療物資ドローン輸送企業Zipline、および物流大手UPSと連携し、世界最大のドローン輸送ネットワークを構築し、ワクチンと必須医薬品を遠隔地の人々に届けました。

2021年2月24日、COVAXワクチンの初荷がガーナに到着しました。60万回分のワクチンがアクラに到着した時点で、そこからさらにワクチンの一部を空輸する準備がすでに進んでいました。UPSの冷蔵トラックの一団がガーナの予防接種拡大普及計画(EPI)の運営する中央保管施設の国営冷蔵室に安全に輸送され、そこからZiplineの「ネスト」(同社の医療用品配布用の自律型ドローン隊の離陸基地)へと運ばれました。

この連携のもと470万回分のワクチンが配布されました。更にアクラ、アシャンティおよび中央地域に少なくとも250万回分の超低温保管を要する製品を含むCOVID-19ワクチン配布を目指しており、輸送が困難な遠隔地でのワクチン接種率が向上しています。

ガーナでも他国と同様、革新的な官民連携の構築におけるGaviの実績が、地球規模の保健危機の際に有益だと証明されました。そして、遠隔コミュニティへの予測可能で効率的な配布など、イノベーションと専門知識によって難しい課題を克服する際のよき事例となっています。

ワクチン接種率のさらなる向上を希望するAMC諸国に対し、コスト・シェアリングメカニズムを介したCOVAXの10億米ドルの追加支援を呼びかける

II アジア開発銀行はCOVAXと密に協働し、コスト・シェアリングメカニズムを設計して新規の供給を可能にすると共に、諸国がワクチンに一層アクセスしやすくし、より低価格でワクチンを手に入れるようにする。これは政府がワクチン接種計画を実行する際に極めて重要である。我々はこのメカニズムを通してこれまでに6億ドル以上を確約し、更に増資する用意もある。

浅川雅嗣、アジア開発銀行総裁

各国が接種率向上に努める中、我々は、各国がワクチンを購入するにあたりCOVAX AMCの価格と配布の情報にアクセスするよう呼びかけています。これによりAMC諸国は、ワクチンの最低価格やCOVAXの多様なワクチンポートフォリオへの広範なアクセスを得ることができます。また、COVAX内に設立されたユニークな無過失賠償スキームも利用できます。この世界で初めてかつ唯一のグローバルなワクチン健康被害補償メカニズムは、全世界でCOVID-19ワクチン接種を成功させる上で克服する必要がある最も厄介な問題の一つ、賠償責任への対処に貢献します。財務リスクの低減、低所得国がCOVAXを通じてCOVID-19ワクチン接種を選択する際の主要なメリットの一つです。

Gaviはその革新的資金調達の実績をもとに、各国政府がワクチン購入に必要なリソースを確保するため、画期的なコスト・シェアリングメカニズムの導入によってMDBからの融資を実現しました。各国は低利の融資あるいは補助金の形でこの資金を利用できるようになりました。一方で各国のワクチン購入のしくみを簡素化し、必要な支援を国際金融機関または地域の金融機関から受けられるようにしています。COVAXのコスト・シェアリングプラットフォームは、アジア開発銀行、

欧州投資銀行および世界銀行との連携により各国に提供されています。コスト・シェアリングへの参加は任意かつ付加的なもので、ワクチンの余剰供給分を活用するため、ドナー資金による配布用ワクチンとは競合しません。

国の保健チーム、国連とACT-A機関に対し、我々の協働の取り組み

市民社会、各国の保健担当者、国連およびACT-A参加組織に対し、共同の努力をスピードアップするよう要請します。新しい変異株に対するワクチン接種の戦いが続く中、各国政府はパートナーや各国チームと共に、ワクチン接種計画を進める最前線に立っています。そして我々全員からの継続支援を必要としています。

WHOの役割は、新規および進化型ワクチンの事前資格審査(PQ)あるいは緊急使用許可の検討を中心となっており、速やかに承認を得ることにあります。ユニセフは引き続き、一刻を争うワクチンの円滑な調達と輸送に取り組みます。また、接種に必要とされる10億米ドルのうち4億米ドルをユニセフの資金として有効活用し、新規のCOVAX配布調整メカニズムにおいてGaviおよびその他パートナーと密に連携して、社会から取り残された脆弱な人々を確実に守らなくてはなりません。

市民社会パートナーには非常に重要で広範な任務があります。特に、脆弱なコミュニティや住民の、あるいは緊急事態における、ワクチン忌避への対応や、ラストワンマイルでのワクチン配送の支援など、グローバルな連帯を継続する緊急性について、ドナー国で意識を高める手助けが必要です。

製薬業界に大胆な行動を呼びかける

世界の取り組みに私たち誰もが等しく貢献してこそこの闘いに勝利できます。私たちは、このパンデミックにおいて製薬業界が現在までに行った素晴らしい取り組みを評価しなければなりません。WHOによるCOVID-19のパンデミック宣言から2年未満で、33種類のワクチンについて少なくとも1つの規制当局がその使用を承認していることは注目に値します。継続的な投資が変異株適応ワクチンと新規ワクチンの両方に向けられ、これらによってパンデミック終息を助けるさらなるツールが世界に提供されることを歓迎します。

製薬業界は今後、接種の妨げとなりうる障害の排除に大きな役割を果たします。我々は特に全製薬企業に対し、COVAX人道支援用ワクチン備蓄を通じたワクチンの求償権放棄と免責を呼びかけます。人道支援組織が何百万もの難民、国内避難民、弱い立場にある人々を救済するに必要なのです。また、実施国およびパートナーが、持続可能な接種を計画し、適切な準備と現場での管理が確実にできるように、製薬業界に対し、COVAXへの最低価格での確実な供給を継続するよう呼びかけます。製薬会社がそのコミットメントを果たし、更に強化して、COVAXの事前購入契約のオプションを通じた変異株専用ワクチンまたはブースターを供給することを求めます。



製薬業界は今後、
接種の妨げとなりうる
障害の排除に主要な
役割を果たす

コスト・シェアリングメカニズム

- II** COVAXと世界銀行によって開発された革新的コスト・シェアリングメカニズムは、新規の供給実現に貢献し各国によるワクチン購入を加速した。ワクチンの入手可能性、価格、配布予定など契約に関するより高い透明性は、政府がワクチン接種計画を準備・実行する上で極めて重要なことと判明している。
- デイビッド・マルパス、世界銀行グループ総裁**

2021年、GaviはCOVAXコスト・シェアリングメカニズムを立ち上げ、MDBからの追加資金と各国の国内資金からの追加融資を引き出して、より低い価格設定でのワクチン調達に成功しました。Gaviの革新的資金調達をめぐる世界的信頼に基づき、このメカニズムは次の5原則に従って運用されます。

- **任意**: 希望しない国には参加義務がなく、不参加による不利益はない。コスト・シェアリングは、AMC諸国が無償で受け取るワクチン数量の割り当てに影響しない。
- **付加的**: コスト・シェアリングは、MDBや国内資金からの追加融資を利用して、各国の目標接種率をより早期に達成可能にするが、AMCドナーの財政支援で提供されるワクチン数量が減らされたりその代用とされることはない。
- **余剰供給分**: コスト・シェアリングを通して購入されるワクチンは、AMCドナーの資金で購入されていない余剰ワクチンであり、その大半は使用されずに使用期限を迎えるであろう製品から選択される。
- **非競合**: 各国ははじめに自国の接種能力を検討するので、コスト・シェアリングによるワクチンが、AMCが助成する無償のワクチンと競合することはない。

- **暫定的:**コスト・シェアリングは一時的なモデルであり、我々は将来的には、Gaviの従来共同融資により近いモデルへの移行を目指している。

2021年、COVAXは**12カ国**の国内予算およびMDBが事前承認した資金から約**8億米ドル**の融資を得ました。これは**1億3,400万回分の追加ワクチン**に相当します。この資金はAMCへのドナー資金に追加されるため、AMC諸国は購買力の向上という恩恵を受けます。結果二国間交渉よりも低い価格でワクチンを手に入れるようになり、ワクチン市場の失敗を解決するのに役立ちます。AMC諸国の大半は、MDBを通じて既に承認されたプロジェクトを持っており、この資金をコスト・シェアリングに利用することができます。

2022年の目標は、パンデミックワクチンへのドナー財政支援に加え、コスト・シェアリングを通して、各国が**10億米ドル**相当のワクチンを購入する支援を行うことです。既存のパートナーのほか、**アジア開発銀行**と**世界銀行**、**欧州投資銀行**は最近、ワクチン接種率向上に努力しているアフリカ諸国支援の取り決めをまとめ、現在、他の銀行との協議も進んでいます。コスト・シェアリングは、AMC諸国が追加ワクチンにアクセスするための重要な手段ですが、取引を確保するためにMDBの資金をリスクにさらすことはできません。この点で、コスト・シェアリングは補完的なものですが、ドナー資金に取って代わるものではありません。ドナー資金は、COVAXポートフォリオから追加の事前購入契約 (APA) オプションを確保するために前もって必要なものです。

コスト・シェアリングは長期的に見ると、より高い持続可能性を備えたパンデミック資金調達モデルの足掛かりとなります。最終的には、ドナー資金での緊急対応は、今日の定期予防接種に見られるような、MDBと各国の国内資金の両方が貢献する方式に移行するでしょう。

ACT-A (ACTアクセラレータ)の資金ギャップを埋める

COVAXの取り組みは、診断、治療、および広範な保健システムの強化といった、その他の不可欠な介入で補完されなければ不完全なものとなります。ACT-A (Access to COVID-19 Tools Accelerator) は、COVID-19の検査、治療、およびワクチンの、開発、製造、公平なアクセスを加速する画期的な国際協力です。2020年4月のG20首脳の要請に応じて設立されました。我々は、個々の介入が相乗効果を必ず発揮するようACT-Aの参加機関と密に協働を続け、ここ数十年で最悪のパンデミックに終止符を打つことができるようにします。付録5には、この投資機会が全体的なACT-Aの戦略計画と予算にどのように結びついているかを記載しています。

これが、私たちがドナーにACT-A全体の支援を呼びかけ、全体的なACT-Aの資金ギャップに緊急に対処する理由です。



最後に、重要なことですが、COVID-19ワクチンの世界的な必要性を満たすという巨大かつ緊急の課題は、大きな道徳的・法的困難を生み出しました。これは、現在のパンデミックを終わらせるだけでなく、次のパンデミックに確実に備えるためにも解決しなければならない問題です。COVAXは、重要な技術的ノウハウを製薬会社が共有することを強く支持しています。私たちが今回見てきたような規模の量のワクチン接種を迅速に行うことができた理由の一つに技術移転がありますが、技術移転はもっと行われなくてはなりません。次のパンデミックに備えるには、世界的に製造能力を高める必要もあります。特に製造能力の低い地域でその努力が必要です。COVAXは知的財産の共有化を促進するあらゆる手段を支持していますが、技術移転のさらなる活用を促すことが、私たちが切実に必要としているワクチンを開発するメーカーのインセンティブを失わずに、十分な供給を確保するための最善の方法と言えます。

インパクトをさらに加速させるチャンス

もし52億米ドル以上の資金が約束されれば、Gaviはパンデミックワクチン備蓄を6億回分以上に増やし、ウイルスが変異し続ける中で世界が直面しているリスクと不確実性にさらに対処できるようになるでしょう。この備蓄は、特にリスク管理を目的としており、必要であれば接種量を増やすことも可能です。特に、ワクチンの代替供給源がなく、これまで平均して供給量の80%以上をCOVAXに依存してきた低所得国など、最もニーズの高い国での一次接種率を高めるために、備蓄による供給の利用に重点が置かれます。

基本シナリオでは6億回分の供給増を見込んでいます。しかしこれは点推定値であり、実際の必要量は、この文書に記載されている不確実性のために今後も変化し続けるでしょう。今後76年間にリスクが高まり、各国が接種率におけるより大きなギャップを埋めるためにCOVAXに頼った場合、最大の需要は想定によると9億回分以上となる可能性があります。これは、需要側では国民全体へのブースターの使用が勧告される、供給側では新たな輸出規制が実施されるなど、より大きなリスクの顕在化を反映させたものです。

投資が十分でなかった場合の代償

COVID-19の大流行は、経済の安定とワクチンの相互関係を浮き彫りにしました。オミクロン変異株が資本市場と商品価格に与えた影響により我々は、すべての人々が守られるまでは、誰も守られないのだということに改めて思い知らされました。この最新の変異株がインフレ水準、産業の安定化とグローバルなサプライチェーンに与える長期的影響は依然として不透明です。世界を安定させ、このパンデミックを終わらせることは、公衆衛生対策だけでなく、今や経済的にも緊急に必要とされています。

Gavi COVAX AMCへの52億米ドルの財源確保が失敗した場合、ワクチン備蓄の規模、ワクチン現物供与の接種用品に充てる資金、そしてワクチン接種計画支援のいずれかの分野のAMC諸国のニーズを後回しにするのか、判断する必要があります。

たとえば資金需要が満たされれば、パンデミック・ワクチン備蓄に6億回分のワクチンを用意でき、AMC対象91か国のハイリスクの人々の100%にブースターを接種できます。また、低所得国のワクチン接種率を13%以上向上させることができます。しかし、備蓄が3億回分しかない場合、ブースターの需給に対応できるのはリスク人口の約50%でしかありません。低所得国のワクチン接種率の引き上げも10%未満にとどまります。そして、これは製薬会社が生産に関わる課題を克服し、WHOの最近または保留中の緊急使用リストにあるワクチンの生産が、2022年第1四半期に拡大すると仮定した場合です。

各国への供給が不透明で安定しないため、最も所得の低い国や最も脆弱な国は、接種率を着実に向上させるための計画を立てることがより困難になります。供給遅れが続く、低所得国は取り残される危険性があります。追加的な配送支援がなければ、世界で最も所得の低い国や最も脆弱な国の一部は、COVAXやその他の供給源を通じて受け取るワクチンの接種に苦勞することになります。人々は地理的に段階を踏んでウィルスを阻止することはできないという重要な事実を忘れ、世界のある地域でワクチンを接種する一方で、他の地域ではそれを遅くまで放置する危険性があります。そうなれば、オミクロンに見られるように、ウィルスは自由に拡散し、変異し、新しい危険な変異株が出現し続けることになります。

80%

低所得国は平均
80%以上の供給を
COVAXに依存



今後の展望：将来のパンデミックに備える



II サウジアラビアは、我々が議長国となり開催されたG20でCOVAXが設立されて以来、その主要な支援者であり続けている。その取り組みは、特に低所得国と脆弱な国家など助けが必要なメンバーの支援に不可欠である。COVID-19とその変異株は、繋がりあった世界においては、ワクチン政策が経済政策でもあることを示している。よってグローバルな取り組みは持続しなければならず、パンデミック予防への投資は、経済と健康の回復を保護してすべての人々に利益をもたらす手頃な保険だといえる。

モハンマド・アルジャダーン、サウジアラビア王国財務大臣

Gaviの22年にわたる感染症流行防止活動と、最近のパンデミック対応から、GaviアライアンスはG20およびG7の議長国にとって、また、国連や多国間の取り組みにとっても、重要なパートナーとなっています。私たちはイタリアと英国の両政府と緊密に協力して「Build Back Better（よりよい復興）」アジェンダを支援しました。2022年には、インドネシアが議長国となるG20とドイツが議長国となるG7に積極的に関与します。

我々の活動は現在のパンデミック対応の基礎の大部分を築くと共に、将来に備えるシステムの確立にも向けられています。COVID-19の危機以前に、Gaviは黄熱病に関するサーベイランスと診断や、2014年のエボラ出血熱の流行時の対応とエボラワクチン備蓄の設立などの感染症予防においてその業績をよく知られていました。

感染症予防の直接支援に加え、多数の国のCOVID-19対応では、アライアンスとの長年の連携で培われた定期予防接種の実施能力を活用することができました。これにはコールドチェーンシステム、地域コミュニティの参画に加え、計画立案、接種、およびモニタリングの能力が

含まれ、そのすべては何十年にもわたる保健システムへの投資の結果といえます。最も重要なのはグローバルな仕組みであり、Gaviが確立しCOVAXファシリティとAMCを通して迅速に拡大したガバナンスと法体系です。これらには予防接種のための国際金融ファシリティ(IFFI)、事前買取制度(Advance Market Commitments)、および事前購入(Advance Purchase Agreements)などの革新的な資金調達方法と市場形成システムが含まれます。

直近では、国際開発金融機関との提携によるコスト・シェアリング、無過失賠償プログラム、求償権放棄協定モデル、および人道支援用ワクチン備蓄などがあります。そのいずれについても、危機に際していつでも発動し迅速に拡大できるシステムとメカニズムを備える必要性は明らかです。

2022年初めにG20財務・保健合同タスクフォースが大臣への報告準備をする中、私たちはCOVAXのより長期的なモデルについて議論するとともに、将来のパンデミック時の資金調達にも寄与できることを希望しています。具体的には、次のパンデミック到来時の迅速な資金動員を目的として現在提案されている金融ファシリティや、パンデミックに備えたIFFI型のその他のメカニズムなどがそれにあたります。

アライアンスを通して動員される重要なスキルや知見が、将来のパンデミック対応の中心的な構成要素となります。我々が行っているワクチン調達資金の早期動員、ワクチンの製造能力、調達と接種システムへの支援のすべてが、現在と将来の危機の回避に不可欠です。グローバルな保健アーキテクチャに前例のないレベルの政治的注目が集まるなか、私たちは今後、合意形成への支援、モメンタムの維持、より公平でよりよいグローバルなパンデミック予防・対応アーキテクチャに積極的に寄与します。

この危機は中途半端な対策や生半可な野心で解決することはできない。思い切った行動が必要だ。そして、政府、民間セクター、市民社会のリーダー、慈善家、それぞれが自らの役割を果たす必要がある。これは我々が総力を挙げてあたるべき危機だ。朗報は、我々がこのパンデミックに打ち勝つ方法を知っていること。それはワクチン、公衆衛生対策、そして団結した行動だ。

ジョセフ・バイデン
アメリカ合衆国大統領

付録1: AMC対象92か国の一 覧およびインドの役割

低所得: アフガニスタン、ベニン、ブルキナファソ、ブルンジ、中央アフリカ共和国、チャド、コンゴ民主共和国、エリトリア、エチオピア、ガンビア、ギニア、ギニアビサウ、ハイチ、朝鮮民主主義人民共和国、リベリア、マダガスカル、マラウイ、マリ、モザンビーク、ネパール、ニジェール、ルワンダ、シエラレオネ、ソマリア、南スーダン、シリア・アラブ共和国、タジキスタン、タンザニア、トーゴ、ウガンダ、イエメン共和国

低・中所得: アンゴラ、アルジェリア、バングラデシュ、ブータン、ボリビア、カーボベルデ、カンボジア、カメルーン、コモロ、コンゴ共和国、コートジボワール、ジブチ、エジプト・アラブ共和国、エルサルバドル、エスワティニ、ガーナ、ホンジュラス、インド、インドネシア、ケニア、キリバス、キルギス共和国、ラオス人民民主共和国、レソト、モーリタニア、ミクロネシア連邦、モルドバ、モンゴル、モロッコ、ミャンマー、ニカラグア、ナイジェリア、パキスタン、パプアニューギニア、フィリピン、サントメ・プリンシペ、セネガル、ソロモン諸島、スリランカ、スーダン、東ティモール、チュニジア、ウクライナ、ウズベキスタン、バヌアツ、ベトナム、ヨルダン川西岸およびガザ地区、ザンビア、ジンバブエ

追加の国際開発協会 (IDA) 支援対象: ドミニカ、フィジー、グレナダ、ガイアナ、コソボ、モルディブ、マーシャル諸島、サモア、セントルシア、セントビンセントおよびグレナディーン諸島、トンガ、ツバル

COVAX AMCにおけるインドの役割

Gavi COVAX AMCは当初、インドを含む92か国のワクチンへの公平なアクセスと支援を提供するために発足しました。COVAXは、現在契約済みワクチンのポートフォリオ17億回分から最大2億4,000万回分を提供することを約束し、輸出禁止措置が取られる前に1,000万回分を供給しました。インドも主要なワクチン供給国であり、国内でのデルタ株の大流行によって輸出停止となる前に、セラム・インスティテュート・オブ・インディア (SII) との契約を通して、SII-AstraZeneca (「コビシールド」) の約3,000万回分がCOVAX経由でAMC対象国に供給されました。現在インドはCOVAXへの供給を再開しており、コビシールドの約1億3,000万回分が現時点で割り当てられています。COVAXのSIIとの取引を通して、私たちは最大5億5,000万回分のコビシールドと最大10億回分のSII-Novavax (「コロバックス」) を確保しました。インドでは45%の人々が2回の予防接種を完了しており、この投資機会は91の低所得国に焦点を定めています。

付録2： 144か国にワクチン 10億回分以上を配布

COVAXは今までに世界の144か国に10億回分以上のワクチンを配布しました。これにはAMC対象86か国(Gavi COVAX Advance Market Commitment対象の低所得国)と自己資金による参加68か国(Self-Financing/SEP)が含まれます。

COVAXがいつ、どこに、どのワクチンを配布したかについて、以下の数字と表に詳細を示しています。本付録内のデータは、1月16日の「ユニセフCOVID-19ワクチン市場のダッシュボード」から引用しています。

図表 13

月別COVAX配布済みワクチン

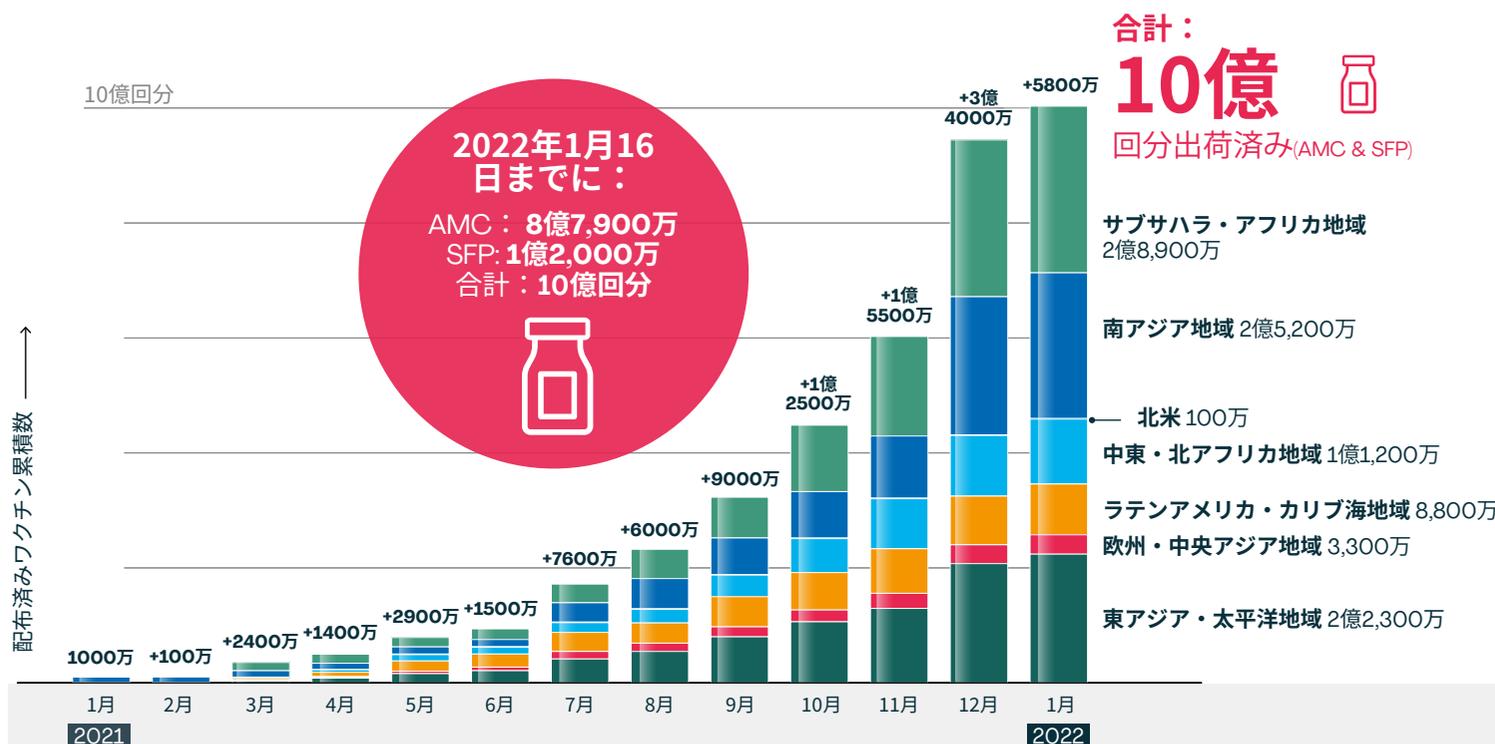


表1

COVAXによるAMC対象国別ワクチン配布

東アジア・太平洋地域		ラテンアメリカ・カリブ海地域	
	216,241,500		20,566,400
カンボジア	3,926,960	ボリビア	6,735,140
フィジー	501,280	ドミニカ	91,980
インドネシア	87,723,170	エルサルバドル	3,606,050
キリバス	104,000	グレナダ	114,630
ラオス人民民主共和国	5,088,150	ガイアナ	291,540
モルディブ	371,170	ハイチ	805,480
モンゴル	1,327,260	ホンジュラス	4,444,620
パプアニューギニア	883,200	ニカラグア	4,163,730
フィリピン	65,724,100	セントルシア	197,430
サモア	215,200	セントビンセント・グレナディーン諸島	115,800
ソロモン諸島	209,420		
東ティモール	393,420	中東・北アフリカ地域	
トンガ	91,800		83,872,400
ツバル	9,600	アルジェリア	15,926,400
バヌアツ	95,950	ジブチ	254,850
ベトナム	49,576,820	エジプト・アラブ共和国	50,548,880
		モロッコ	4,190,190
		シリア・アラブ共和国	4,892,840
		チュニジア	4,519,020
		ヨルダン川西岸・ガザ地区	1,362,620
		イエメン共和国	2,177,600
欧州・中央アジア地域		南アジア地域	
	28,045,050		252,343,080
コンゴ	739,620	アフガニスタン	6,204,050
キルギス共和国	1,278,240	バングラデシュ	130,420,330
モルドバ	830,790	ブータン	505,850
タジキスタン	7,569,320	インド	10,000,000
ウクライナ	8,081,540	ネパール	22,926,920
ウズベキスタン	9,545,540	パキスタン	77,157,720
		スリランカ	5,128,210

サブサハラ・アフリカ地域		277,775,860	
アンゴラ	21,069,180	マラウイ	2,813,850
ベニン	2,867,940	マリ	2,605,600
ブルキナファソ	3,752,390	モーリタニア	1,985,730
カーボベルデ	361,220	モザンビーク	19,172,820
カメルーン	1,380,750	ニジェール	3,446,970
中央アフリカ共和国	1,189,260	ナイジェリア	49,879,440
チャド	1,294,310	ルワンダ	14,001,260
コモロ	12,000	サントメ・プリンシペ	129,120
コンゴ民主共和国	5,149,740	セネガル	3,770,990
コンゴ共和国	1,633,500	シエラレオネ	1,510,110
エスワティニ	429,420	ソマリア	5,096,900
エチオピア	22,461,170	南スーダン	1,002,070
ガンビア	376,800	スーダン	6,354,290
ガーナ	16,266,490	タンザニア	5,910,120
ギニアビサウ	360,000	ギニア	4,493,790
ケニヤ	19,329,270	トーゴ	3,545,670
レソト	653,670	ウガンダ	30,922,740
リベリア	1,246,980	ザンビア	4,508,320
マダガスカル	2,894,260	ジンバブエ	1,378,800
		コートジボアール	12,518,920

表2

種別別COVAX配布済みワクチン

ワクチンの種類	ドーズ(何回分か)
アストラゼネカ	240,210,150
アストラゼネカ-SII	46,010,500
ジョンソン・エンド・ジョンソン	125,442,850
モデルナ	149,016,120
ファイザー	259,018,110
中国医薬集団(シノファーム)	96,061,200
シノバック	84,472,600
総計	1,000,231,530

付録3: モニタリング、評価、学び

2022年のCOVAXの取り組みでは、進捗状況、成果、そして時々課題をしっかりとモニタリングすることが引き続き重要になります。2022年時点でGaviがCOVID-19ワクチン接種に果たす役割へのビジョンとの整合性を確保するべく報告枠組みが修正されます。その上で、一連の最重要指標に関して、「COVAX報告フレームワーク」に関する定期的報告を継続します。これらの指標は、COVAXの学びにおけるアジェンダと同様に、幅広く詳細な戦略的およびプログラムの分析によって補完されます。2022年は、評価可能性および評価設計が行われ、そのうちGaviの委託によって、COVAXファシリティーおよびCOVAX AMCに関するマルチフェーズの独立評価が始まります。

モニタリング、評価、および学びのアプローチに含まれる予定のテーマと結果には以下が含まれますが、これらに限定されるものではありません。

- パンデミック・ワクチン備蓄の活用状況、そして新たな不確実性とパンデミックの進化への対応に不可欠な追加のワクチンがどのように発送されたのかを報告。
- COVID-19ワクチンの接種支援の拡大に伴い、そのタイムリーな支払いや投資だけでなく、COVAXが提供するワクチンの期限切れなど、主要リスクの緩和努力にも焦点をあてて報告する。

- 特に、ワクチン供給をCOVAXに最も依存している国々に対するCOVAXの支援、および低所得国・下位中所得国での成果を詳細に分析する。
- 製品の選好、人口に対するワクチン接種率に関して要請された支援水準など、国の需要を満たす上でのCOVAXの成功を定期的に追跡する。
- 死亡の回避を含め、COVAXの取り組みが及ぼす全体的な影響についてさらに調査する。

付録4: GAVI COVAX AMCへの 100億米ドル以上の誓約

表3

2021年12月時点での国々のワクチン接種目標

2021年～2025年Gaviへの確約（拠出ベース）

数字はすべて百万米ドル単位の米ドルまたは米ドル相当額（現地通貨での寄付の場合）

ドナー国	直接拠出(米ドル)	IFFImへの直接拠出 (米ドル)	配布拠出(米ドル)	拠出合計額
オーストラリア	72	28		100
バーレーン	2.5			2.5
ブータン	0.01			0.01
カナダ	414		56	470
中国	100			100
コロンビア	0.5			0.5
アイスランド	6			6
日本	1,000			1,000
韓国	210			210
クウェート	50			50
リヒテンシュタイン	0.2			0.2
マレーシア	0.1			0.1
モーリシャス	0.003			0.003
メキシコ	0.3			0.3

ドナー国	直接拠出(米ドル)	IFFImへの直接拠出 (米ドル)	配布拠出(米ドル)	拠出合計額
モルドバ	0.003			0.003
ニュージーランド	20			20
ノルウェー	25	111		136
オマーン	1			1
カタール	10			10
サウジアラビア	150			150
シンガポール	5			5
マルタ騎士団国	0.01			0.01
スイス	162			162
チームヨーロッパ 以下を含む:				3,220
オーストリア	6			6
ベルギー	5			5
クロアチア	0.6			0.6
デンマーク	16			16
エストニア	0.2			0.2
欧州委員会	489			489
フィンランド	12			12
フランス	218		23	240
ドイツ	1,009		213	1,222
ギリシャ	1.8			1.8
アイルランド	5			5
イタリア	470			470
ルクセンブルク	2.4			2.4
マルタ	0.05			0.05
モナコ	0.1			0.1
オランダ	83			83

数字はすべて百万単位

ドナー国	直接拠出(米ドル)	IFFImへの直接拠出 (米ドル)	配布拠出(米ドル)	拠出合計額
ポーランド	0.9			0.9
ポルトガル	0.8			0.8
スロベニア	0.6			0.6
スペイン	0.9	122		123
スウェーデン	267	272		539
フィリピン	1			1
英国	63	669		731
米国	3,500		500	4,000
ベトナム	0.5			0.5
合計 ドナー国	8,379	1,203	791	10,373

財団、企業、および団体

Aercarp Ireland Limited	0.10			0.10
Allen & Overy Foundation	0.07			0.07
Alight Solutions*	0.25			0.25
Analog Devices Foundation*	2.5			2.5
匿名ドナー	2			2
Asia Philanthropy Circle*	1.5			1.5
Bill & Melinda Gates Foundation (BMGF)	206		30	236
Blackberry*	0.15			0.15
Charities Trust	0.62			0.62
Cisco*	5			5
Centene Charitable Foundation*	0.25			0.25

ドナー国	直接拠出(米ドル)	IFFImへの直接拠出 (米ドル)	配布拠出(米ドル)	拠出合計額
Coca-Cola Foundation*	0.5			0.5
CODE(RED) Campaign	0.05			0.05
Epiroc AB*	0.23			0.23
Etsy	0.13			0.13
Exxon Mobile Foundation	0.05			0.05
Gates Philanthropy Partners	18			18
Goodrich Corporation (Collins Aerospace)	0.1			0.1
Google.org*	7.1			7.1
IF Metall	0.03			0.03
Kerke in Actie	0.37			0.37
King Baudouin Foundation	0.13			0.13
KS Relief/Gamers Without Borders	27			27
Mastercard*	27			27
Mc Hugh O'Donovan Foundation	0.1			0.1
Medline International	0.02			0.02
(株)日本経済新聞社	0.05			0.05
NITO	0.01			0.01
Okta for Good Fund	0.01			0.01
PagerDuty*	0.2			0.2
Pratt & Whitney*	0.1			0.1

数字はすべて百万単位

ドナー国	直接拠出(米ドル)	IFFImへの直接拠出 (米ドル)	配布拠出(米ドル)	拠出合計額
ポルトガルの民間	1.83			1.83
PPL	0.01			0.01
Procter & Gamble*	5			5
Reed Hastings and Patty Quillin	30			30
Russell Reynolds Associates*	0.11			0.11
Salesforce*	0.66			0.66
Seadream Family Foundation	1			1
Shell	10			10
SMBC Aviation Capital Limited*	0.1			0.1
Soccer Aid	4			4
Stanley Black & Decker*	1			1
Stepstone Group	0.03			0.03
Spotify*	0.5			0.5
Symasia Happybones Foundation	0.25			0.25
Thistledown Foundation*	3.9			3.9
TikTok*	5			5
豊田通商	0.91			0.91
TransferWise	5			5
Twilio*	10			10
UBS Optimum Foundation*	2.1			2.1

ドナー国	直接拠出(米ドル)	IFFImへの直接拠出 (米ドル)	配布拠出(米ドル)	拠出合計額
UNFCU Foundation	0.06			0.06
Vaccine Forward Initiative	2.1			2.1
Visa Foundation*	4.5			4.5
Walter de Gruyter GMBH	0.08			0.08
WHO Foundation-Go Give One Campaign	6			6
Workday Foundation*	0.1			0.1
その他民間慈善 セクター拠出	48			48
財団、企業、および団体の合計	443			473
現在までの 誓約合計	8,822	1,203	821	10,846

注:

* マッチングギフトあり

** Basque Agency for Development CooperationおよびCatalan Agency for Development Cooperationからの誓約を含む

保証

チームヨーロッパ (欧州委員会/EIB)	537
-------------------------	-----

付録5: ACT (ACCESS TO COVID-19 TOOLS) アク セラレータおよびCOVAX

ACTアクセラレータ (Access to COVID-19 Tools Accelerator、ACT-A) は、世界中の既存の公衆衛生インフラストラクチャと専門知識を速やかに活用して、COVID-19の検査、治療、およびワクチンの開発、製造、公平なアクセスを加速するために設計された期限付きのコラボレーションです。

ACT-Aに貢献する組織それぞれが、グローバルなCOVID-19への対応に重要な役割を果たします。これら組織の取り組みは、3つの柱(ワクチン、治療、検査)にまとめられ、分野横断的な保健システム・コネクター (Health Systems Connector、HSC) によって支援され、アクセス&割り当て (Access & Allocation) ワークストリームによって主導されます。このすべての分野で、独自の構造とプロセスを通して作業計画を作成・導入する権限を持ちます。市民社会エンゲージメント・ワークストリームは、ACT-A全体の市民社会とコミュニティの意見を確実にすくい上げます。ACT-Aを通して、主要な組織が政府、市民社会、および産業界と密に連携し、パンデミックの終息に必要なツールの開発に対する統合的アプローチを提供します。それぞれの柱は、疾病から人々を保護する、新しい感染例を速やかに特定して感染の伝染を止める、罹患した人々を治療する、およびツールの迅速な展開を支援する、という活動に必要で、これらの介入を組み合わせることでCOVID-19の伝染と重症化を制限し、パンデミックによる経済的インパクトを最小化できます。

ACTアクセラレータのワクチンの柱

COVAXはACT-Aのワクチンの柱となっており、CEPI、Gavi、およびWHOによって共同で運営され、主要な接種パートナーとしてユニセフと協働しています。Gaviが運営するCOVAXファシリティは、参加190か国によって使用される安全で効果的なCOVID-19ワクチンの調達に責任を負っています。

各パートナーには次のような明確な役割があります。

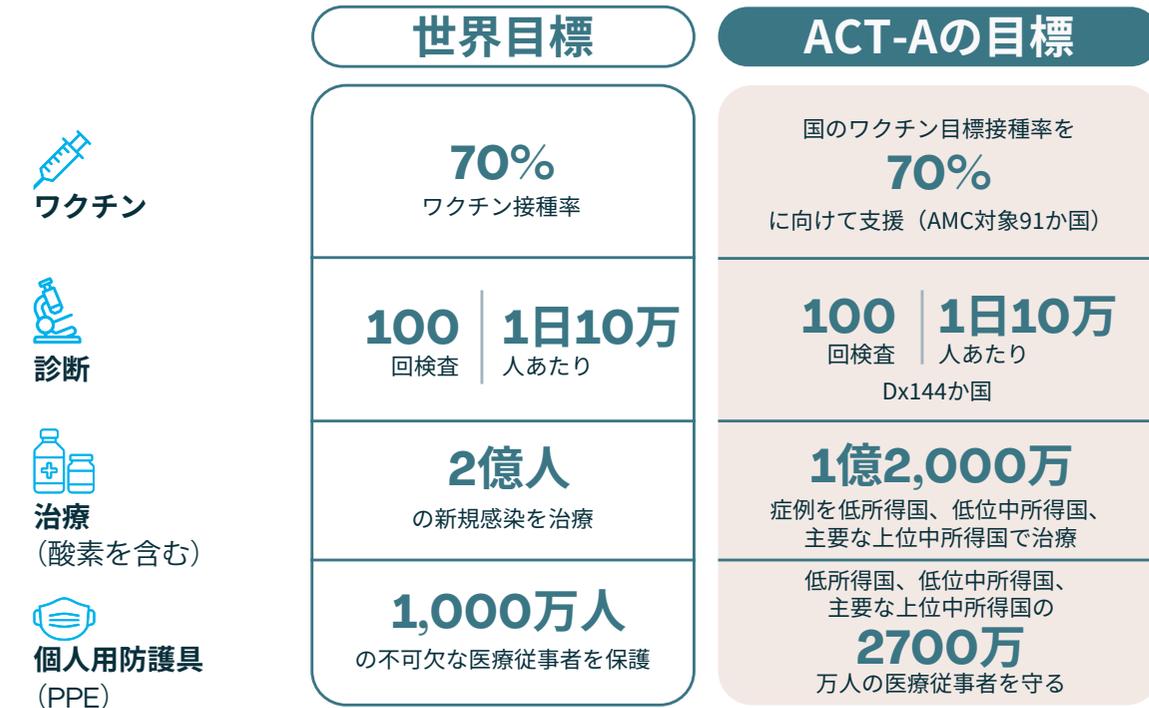
- **CEPI**は、COVID-19ワクチン候補の広範なポートフォリオを管理し、ポートフォリオに追加できる可能性がある有望な候補が現れた場合はそれを評価します。
- **Gavi**は、供給制約がある中で早期接種分のワクチン確保のために製薬会社と交渉し、ワクチン調達ではユニセフの供給部門および汎米保健機構 (PAHO) と連携し、参加政府と契約および金融取り決めを行い、COVAX AMC対象92か国を代表してリソースを動員します。
- **WHO**は、ワクチンの割り当てと規制プロセスを取りまとめ、ワクチンを受け取るための各国の準備状況を審査し、技術援助を提供します。
- **ユニセフ**は、汎米保健機構 (PAHO) と共同でCOVID-19ワクチンを調達し、ワクチン配布のロジスティクス (輸送と保管を含む) を管理します。

ACTアクセラレータの戦略計画と予算、およびGavi COVAX AMC投資機会

2021年10月28日、ACT-Aは、2021年10月から2022年9月の戦略計画と予算を設定しました。

図表 14

2022年9月末までのCOVID-19ツールへのアクセス世界目標達成に向けたACT-Aの貢献



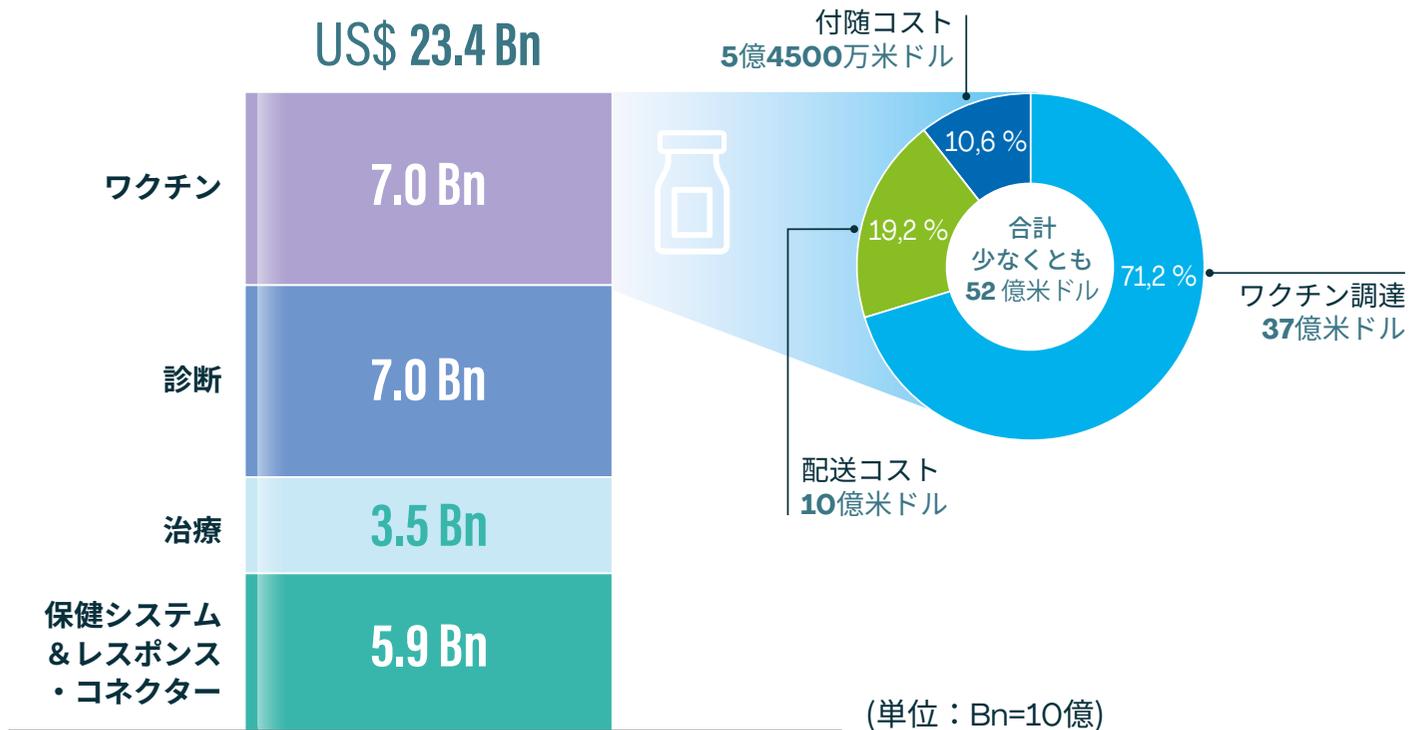
出典：世界保健機関「ACT アクセラレータの戦略計画と予算 (ACT-Accelerator Strategic Plan & Budget)、2021年10月～2022年9月」に基づく。

Gavi COVAX AMC投資機会内の資金の要請と調達戦略は、ACT-Aの計画と完全に一致するよう作成されています。

「ACTアクセラレータの戦略計画と予算」には、新規の焦点、戦略的な優先順位、取り組みの主な範囲、そしてACTアクセラレータの資金調達の必要性がわかりやすく説明されています。図表14に示されているように、これにはCOVID-19ツールへのアクセスに関する全体的なギャップと障壁のトラッキング、ワクチン、検査、治療、および個人用防護具 (PPE) へのアクセスにおける世界のギャップを埋める支援、そして、柱であるワクチン接種支援と各国のCOVID-19対応メカニズムとの統合が含まれます。「ACTアクセラレータ戦略レビュー」の主要な奨励事項を反映させて、ACT-Aの取り組みを国とコミュニティのニーズに沿ったものにします。また、COVID-19ツールへのアクセスに関する世界目標のもとに立てられたリザルツ・ベースのアプローチを採用し、COVID-19ツールへのアクセス不平等解消に焦点を当てているその他のアクターおよびイニシアティブの活動と協調します。

図表 15

COVAX AMCの2022年投資機会に対するACT-Aの戦略計画と予算の位置付け



注：ACT-Aが今後12か月に必要な合計資金

2021年10月～2022年9月の柱別ACT-A資金調達ニーズ

2021～2022年にACT-Aの4つの柱全体に必要な合計資金は、234億米ドルに設定されました。ACT-Aの目標達成のために、Gavi、CEPI、WHOおよびユニセフを対象とするワクチンの柱全体に必要な合計資金は70億米ドルに設定されました。図表15は、このGavi COVAX AMCに設定された52億米ドルの必要資金が、どのように柱の合計要請額に対応するかを示しています。CEPI、ユニセフ、およびWHOはさらに、研究開発、製品評価とポリシーガイダンス、そしてこの計画を完全なものとするための政府機関の技術援助と接種支援も対象とするよう求めています。Gaviは引き続きACT-Aおよびワクチンの柱内で積極的な役割を担い、私たちの計画と資金集めの戦略が今後数か月にわたって一貫性を持ち相互支援的であり続けることを保証します。

付録6: ワクチン現物供与

表4

ワクチン寄付

2022年1月17日現在

ドナー	COVAX AMC+SEP ¹¹ への正式オファー	COVAX AMC (AMC+SEP)による 出荷済み分	確認済みの追加供給 ¹³		公表された現物供与 AMC+SFP+二国間
			Q1 2022	Q2 2022	
オーストラリア	0.0	0 / (0.0)	0	0	60
カナダ	24.4 ¹²	10.2 / (11.9)	3.5	0	51 ⁷
チームヨーロッパ	320 ¹¹	217 / (227)	55 ⁹	10 ⁹	473 ^{2,6}
ベルギー	8.8	7.6 / (7.8)	0	0	8.8
チェコ共和国	1.5	1.4 / (1.4)	0	0	1.9
デンマーク	7.2	4.7 / (4.8)	0	0	7.2
フィンランド	3.3	0.7 / (0.7)	0	0	3.7
フランス	64.7	44.1 / (44.3)	0	0	120 ²
ドイツ	93.6 ¹²	76.4 / (77.2)	0	0	175 ²
ギリシャ	4.3	2.1 / (2.1)	0	0	4.3 ²
アイルランド	2.6	1.0 / (1.0)	0	0	2.6
イタリア	47.0	28.0 / (31.5)	0	0	47.0 ²
オランダ	16.9	13.8 / (13.8)	0	0	27.0
ノルウェー	6.2	3.3 / (3.3)	0	0	6.2
ポルトガル	2.4	2.4 / (2.4)	0	0	3.2 ²
スロバキア	1.1	1.1 / (1.1)	0	0	1.3

ドナー	COVAX AMC+SEP ¹ への正式オファー	COVAX AMC (AMC+SEP)による 出荷済み分	確認済みの追加供給		公表された現物供与 AMC+SFP+二国間
			2022年Q1	2022年Q2	
スロベニア	1.1	0.7 / (0.7)	0	0	1.2
スペイン	46.5	20.9 / (25.7)	0	0	50 ²
スウェーデン	8.5	5.7 / (5.7)	0	0	8.5
その他 ³	3.6 ⁵	3.3 / (3.3)	0	0	4.5
中国香港特別行政区	7.5 ⁸	0.6 / (0.6)	0	0	7.5
日本	24.7	11.8 / (15.4)	16	0	60 ²
中国マカオ特別行政区	0.0	0 / (0)	0	0	0.4
ニュージーランド	5.1	0.9 / (0.9)	3	0	8.0
韓国	0.0	0 / (0)	0	0	4.8
スイス	1.9	1.8 / (1.8)	0.4	0	4.0
アラブ首長国連邦	0.0	0.0 / (0.0)	0	0	1.0
英国	25.8	17.8 / (17.8)	23	3	100.0
米国	513 ¹⁴	182 / (193.5)	0	0	857.5 ⁴
合計	922	442 / (469)	101	13	1627

2022年第2四半期末までのAMCへの供給予測は推定9億6,800万(正式オファーと確認済みの追加供給)。¹⁰

注:COVAXに申し入れのあった数量は、メーカーからの供給情報に基づき変化することがあります。供給がCOVAXの要件を満たさない場合(例:国内での保存可能期間が10週間未満など)、これらの数字は低くなる可能性があります。

注:寄付され出荷された数量の合計は、四捨五入により完全に一致しない可能性がある。1.COVAXが受け入れたオファー通知(合計には要件を満たした数量のみが含まれる)。2.主にCOVAXを通じたもの。最終数値はドナーによって共有された最新情報に基づく推定値。3.アイスランド、エストニア、ルクセンブルク、クロアチア、ラトビア、リトアニア、オーストリア、キプロス。4.米国の支援によりCOVAXは10億回分のファイザー製ワクチンを確保。これには寄付による7億回分のワクチンが含まれ、ここでの合計に反映されている。米国は3億回分の追加ワクチンの調達も促進した。5.アイスランド(30万)、エストニア(40万)、ルクセンブルク(40万)、クロアチア(100万)、ラトビア(5万)、リトアニア(30万)、オーストリア(100万)、キプロス(10万)からの寄付を含む。6.チームヨーロッパのドナーの誓約合計。7.カナダは2022年の年末までに最低2億回分相当のワクチンを寄付すると公表(そのうち5,100万回分はここに含まれている)。8.2021年に300万回分が寄付され、2022年の割り当てに450万回分がすでに寄付された。9.追加のワクチン数量に大きな可能性あり。10.9億6,800万=配布済みの4億4,200万+残りの正式オファーの93%(1億3,300万)&確認済みの追加供給(2億1,100万+2億2,300万)。11.2021年第4四半期と2022年第1四半期の割り当て用に寄付された追加の2,100万回分のJ&Jワクチン。12.オファー通知が更新された(低減)。13.第1四半期の供給にはCOVAXの承諾待ちの正式オファーを含む。14.2022年の確認済みの第1、第2四半期の供給を含む。すでに承諾・割り当て済み。

表5

2021年四半期別および月別の配布済みワクチン現物供与数量の合計

四半期	月	2021年月別配布数		2021年四半期別配布数	
		合計	累積	合計	累積
Q2	4月	31,200	31,200		
	5月	343,200	374,400	5,015,200	5,015,200
	6月	4,640,800	5,015,200		
Q3	7月	67,667,040	72,682,240		
	8月	31,762,560	104,444,800	136,742,754	141,757,954
	9月	37,313,154	141,757,954		
Q4	10月	47,732,022	189,489,976		
	11月	70,122,842	259,612,818	293,741,044	435,498,998
	12月	175,886,180	435,498,998		
TOTAL Donations					435,498,998

表6

2021年ワクチン製品別合計配布数vaccine product in 2021

ワクチン製品	合計
アストラゼネカ	126,991,750
ジョンソン・エンド・ジョンソン	119,457,250
モデルナ	104,817,720
ファイザー	84,232,278
合計	435,498,998

表7

2021年末までの地域別合計配布数

Region	合計	割合
東アジア・太平洋地域	113,432,742	26%
欧州・中央アジア地域	10,538,352	2%
ラテンアメリカ・カリブ海地域	20,651,494	5%
中東・北アフリカ地域	48,380,034	11%
南アジア地域	80,255,528	18%
サブサハラ・アフリカ地域	162,240,848	37%
合計	435,498,998	100%

ENDNOTES

1. Gavi COVAX AMCの対象92か国には31の低所得国が含まれる。詳細は付録1を参照。
2. <https://www.Gavi.org/news/media-room/joint-statement-dose-donations-covid-19-vaccines-african-countries>
3. IMF世界経済見通し、2021年10月、p25
4. <https://www.mckinsey.com/featured-insights/future-of-work/covid-19-and-gender-equality-counteracting-the-regressive-effects>
5. <https://www.who.int/publications/i/item/WHO-2019-nCoV-vaccines-SAGE-recommendation-immunocompromised-persons>
6. MRC Centre for Global Infectious Disease Analysis、インペリアル・カレッジ・ロンドン、COVAX AMC対象国の分析（2021年12月）
7. AMC対象国のうち規模の大きさに基づくハーバード大学の予備的推定。

写真クレジット

表紙 Lam_zews; P.4 Gavi/2021/White Rhino Films-Lameck Orina; P.7 UNICEF/UN0426749/Dware; P.10 Gavi/2021/White Rhino Films-Lameck Orina; P.14 UNICEF/UN0439495/Vatava Media; P.17 Gavi/2020/Isaac Griberg; P.19 Gavi/2020/Isaac Griberg; P.21 Gavi/2021/Benedikt v.Loebell; P.23 UNICEF/UN0471084/Sujan; P.25: UNICEF/UN0421695/Singh; P.29 WHO/PAHO/2021; P.30 Gavi/2021/Jeffrey Atsuson; P.33 GAVI/2012/Diane Summers; P.36 GAVI/2006/Indras Getachew; P.39 Gavi/2021/Jeffrey Atsuson; P.41: Gavi/2021/White Rhino Films-Lameck Orina; P.47 Gavi/2021/Asad Zaidi; P.50 WHO/2021; P.52 Gavi/2021/Benedikt von Loebell; P.55 Gavi/2021/Lameck Orina; P.56 Gavi/2021/Asad Zaidi; P.60 Gavi/2021/Asad Zaidi; P.61 Gavi/2020; P.63 UNICEF/UN0421688/Singh; P.68 UNICEF/UN0426109/Kanobana; P.69 2021/Samuel-Moore; P.75 – WHO/2020; P.78 UNICEF/UN0426592/Verzosa; P.79 Gavi/2018/Simon Davis

いまこそCOVIDに 打ち勝ちましょう



CEPI

